参考資料２

みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040

～ 高校教育の創造的再構築 ～

令和８年３月

宮城県教育委員会

はじめに

宮城県では、平成３１年２月に策定した「第３期県立高校将来構想」に基づき、志教育の推進や、社会的ニーズに応じた高校づくり、学びの多様化への対応、活力ある教育環境の確保に向けた再編などの高校教育改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、本県の中学校卒業者数は、令和７年３月の 19,265 人から今後１４年で約 7,000 人、約４割の大幅な減少が見込まれており、かつて経験したことのない急速な少子化の進行という局面を迎えています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所が公表している将来推計人口においては、その人口減少局面は今後継続していくことが見込まれているところです。

こうした状況の中にあっても、将来にわたり本県の高校教育の質を確保し、県内のどこに住んでいても、生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整えていくことは、私たちに課せられた重要な責務であることから、今回、強い危機感のもと、これまでの対応の延長ではなく、考え方を大きく転換し、今後の１４年間やその先も見据えた方針を決めていく必要があるものと考え、第３期県立高校将来構想の終期を前倒しして、新たな将来構想を策定することといたしました。

この「みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040」は、こうした認識のもと、従来の考え方にとらわれない、新たな視点からの今後の本県の県立高校が果たすべき役割と目指すべき方向性を示す基本指針であります。構想の策定に当たっては、令和６年２月に 県立高等学校将来構想審議会に諮問し、約２年にわたり、県立高校を取り巻く状況などを踏まえて、幅広い視点から建設的な御議論を重ねていただきました。また、地域における説明会や企業等への個別訪問による意見聴取、パブリックコメントのほか、中学生や高校生、その保護者へのアンケート調査など、広く県民の皆様から御意見をいただきました。

生徒を主語にした高校教育の創造的再構築の実現に向けて、学校・家庭・地域が連携しながら、県民の皆様とともに、本構想の着実な推進に取り組んでまいります。

令和８年３月

宮城県教育委員会

目　次

第１章　新たな県立高校将来構想の策定について
１　策定の趣旨　・・・

（３）多様なニーズに対応した教育の推進
（４）教育ＤＸの推進
（５）地域と学校の連携・協働体制の推進

２　時代のニーズに対応した高校の魅力化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
（１）普通科系の学び
（２）専門学科系の学び

３　多様な学びの在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
（１）ｉｄｅａｌスクール
（２）定時制・通信制の在り方
（３）特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

４　小規模校の学びの在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
（１）オンラインの効果的な活用推進
（２）地域連携や学校間連携の取組

５　オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

第５章　将来構想の推進
１　学校・家庭・地域の協働の必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３

２　持続可能な学校教育の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３
（１）社会に開かれた教育課程の推進
（２）外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保
（３）教職員の支援体制
（４）生徒の相談・支援体制の構築
（５）教育環境の充実

３　入学者選抜の在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４

４　将来構想の推進に向けた適正な進行管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
（１）社会情勢の変化に応じた進行管理
（２）適正な進行管理

資料編　・・　３５

第１章　新たな県立高校将来構想の策定について

１　策定の趣旨

○　本県では、平成３１年２月に策定した「第３期県立高校将来構想」（平成３１年度～令和１０年度）に基づき、少子化の影響や小規模校の増加に伴う教育環境の整備・充実など、高校教育を取り巻く環境の変化に対応した教育改革を進めてきました。しかしながら、１４年後の令和２１年度における中学校卒業者数は、現在より約７，０００人、約４割少なくなることが見込まれ、第３期構想策定当時の想定を上回る急速な少子化の進行を踏まえ、人口減少局面に対応した教育環境の整備について早期に検討を進める必要があります。

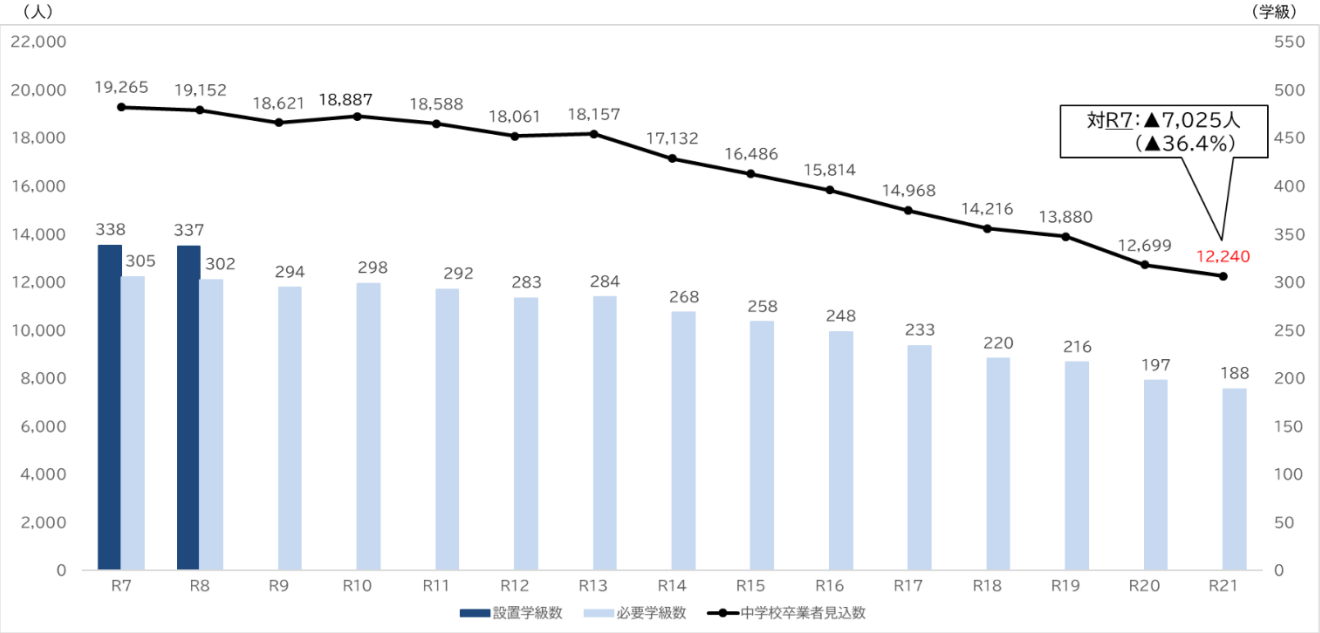
○　近年の教育環境を巡る状況は目まぐるしく変化しており、生徒の多様な教育的ニーズに応じた学びの必要性や、グローバル化、デジタル社会の進展を背景に、生徒の興味・関心や将来の進路希望に応じた、柔軟に学びを選択できる環境や、生徒自身の将来の可能性を広げるための学習環境の整備が必要となってきています。

○　今後、更に先行きが不透明で予測困難な社会情勢となっていく中では、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むとともに、生徒一人一人の個性や背景を尊重し、学力の向上だけでなく、心身の健康、社会的つながり、自己実現の観点を踏まえ、誰一人取り残されずに、生徒が安心して自己表現できる学校づくりを通して、生徒一人一人のウェルビーイングを実現することが求められています。

○　さらに、生産年齢人口の減少が見込まれる中、これまで以上に地域の特色を踏まえた学びを充実させるとともに、地域との連携を深め、より実社会と結び付いた学びの機会を提供することにより、地元の産業を支えるなど、地域に貢献できる人材を育てることが、高校教育に求められています。

○　こうした急速な少子化の進展やそれに伴う高校教育に対するニーズの変化を踏まえ、構想の期間を前倒しし、従来の考え方にとらわれない、生徒を主語にした新たな視点から高校教育を創造的に再構築することを目指し、新たな県立高校将来構想を策定することとしました。

＜本県の中学校卒業者見込数及び必要学級数の推移＞



２　構想の位置付け

○　本構想は、１４年後の本県の県立高校の姿をビジョンとして示すものであり、具体的な学校配置の在り方や再編に向けたプロセス、目指す姿の実現に向けた具体的な取組等については、本構想を踏まえて、別に実施計画を策定します。

○　本構想は、文部科学省が示す「教育振興基本計画」（令和５年６月１６日閣議決定）、「高等学校学習指導要領」（平成３０年告示）や、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」（令和３年１月２６日）等との整合性を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、探究的な学びの深化、普通科の改革、さらには地域との連携・協働の推進といった観点を踏まえつつ、本県の実情に応じた高校教育の方向性を示すものです。

○　また、「第２期宮城県教育振興基本計画（改訂版）（平成２９年度～令和１０年度）」（令和６年３月）の目指す姿の実現に向け、高校教育における、豊かな人間性と社会性の育成や、確かな学力の育成、多様な進路希望の実現に対応する支援体制の充実など、その方向性を示すものです。

○　さらに、宮城県産業教育審議会の「『今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方』について」（令和７年３月）において、急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方として、魅力ある新たな学びの方策や、専門高校と地域・産業界等の連携・協働の取組強化等について提言されていることから、その内容を踏まえながら、産業人材の育成等に向けた高校教育の在り方も示すものです。

○　加えて、「第２期宮城県特別支援教育将来構想（令和７年度～令和１６年度）」（令和７年２月）で掲げる目標である、誰一人取り残さない学校づくりの中の「高等学校等における特別な配慮や支援を必要とする生徒の学びの充実」の実現に資する、県立高校におけるインクルーシブ教育の推進を図ることにより、様々な個性や能力、背景を持つ生徒一人一人が尊重され、全ての生徒が共に学び、共に成長できる教育環境の実現を目指しています。

○　本構想は、宮城県の総合計画である「新・宮城の将来ビジョン（令和３年度～令和１２年度）」（令和２年１２月）に掲げられている「活力に満ち、安心して暮らせる宮城の創造」の実現に向けて、高校教育の方向性を示すものです。

３　構想の期間

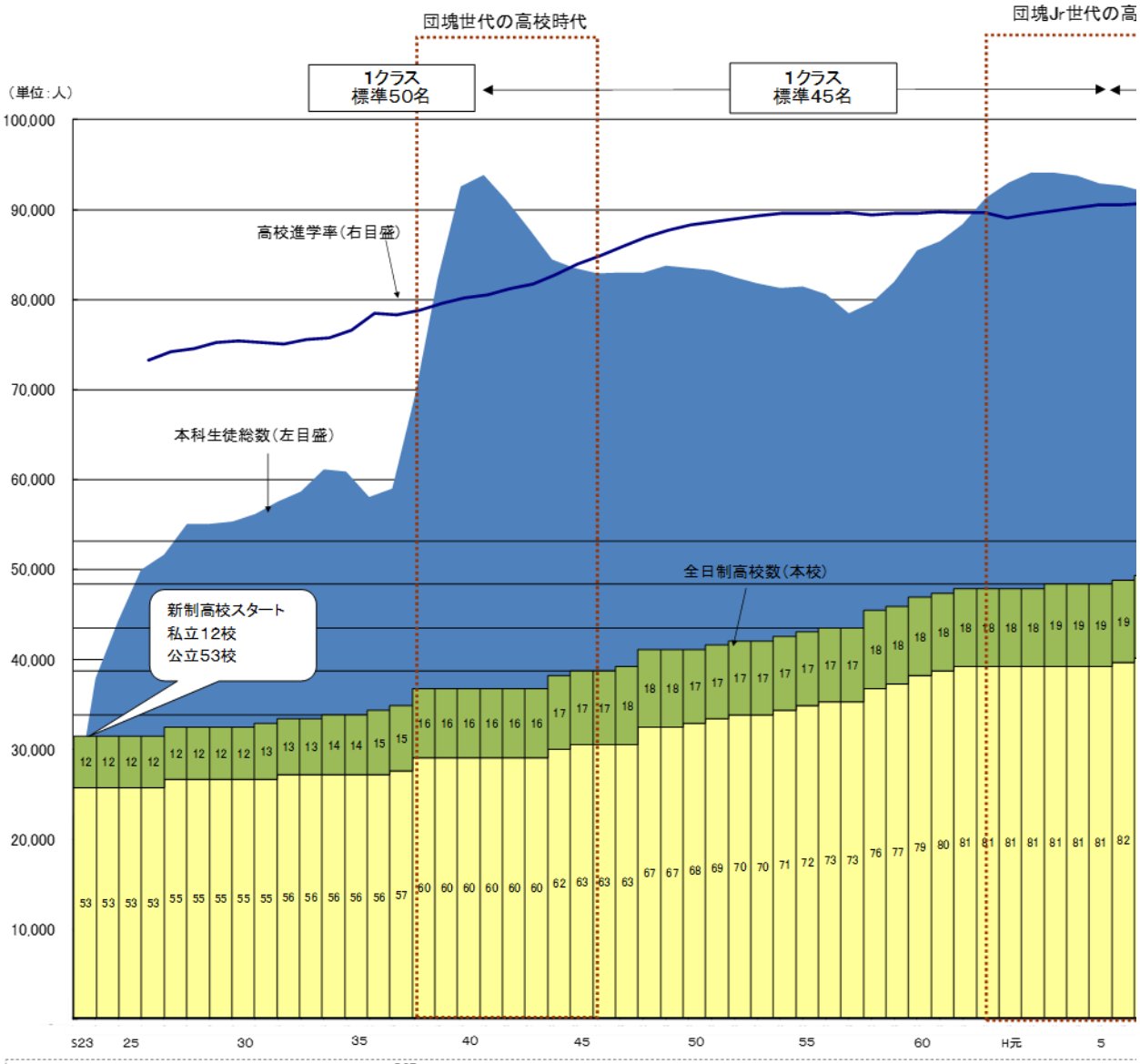
○　本構想は、社会経済環境の変化や生徒・地域の多様なニーズに的確に対応するため、構想策定時点で最大限推計できる中学校卒業者数を元に１４年先まで見通しが立つことから、令和８年度から令和２１年度までの１４年間を対象期間として設定するものです。

○　学校配置の在り方や再編に向けたプロセス、目指す姿の実現に向けた具体的な取組等については、本構想を踏まえて、別に実施計画を策定します。

○　また、実施計画については具体的な取組を段階的かつ着実に進めるため、次の３つの期間に区分します。

第１次実施計画　令和９年度から令和１３年度まで
第２次実施計画　令和１４年度から令和１７年度まで
第３次実施計画　令和１８年度から令和２１年度まで

＜高校生の生徒数及び全日制高校数（公立・私立）の推移（昭和２３年度～令和２１年度）＞



＜公立高校＞

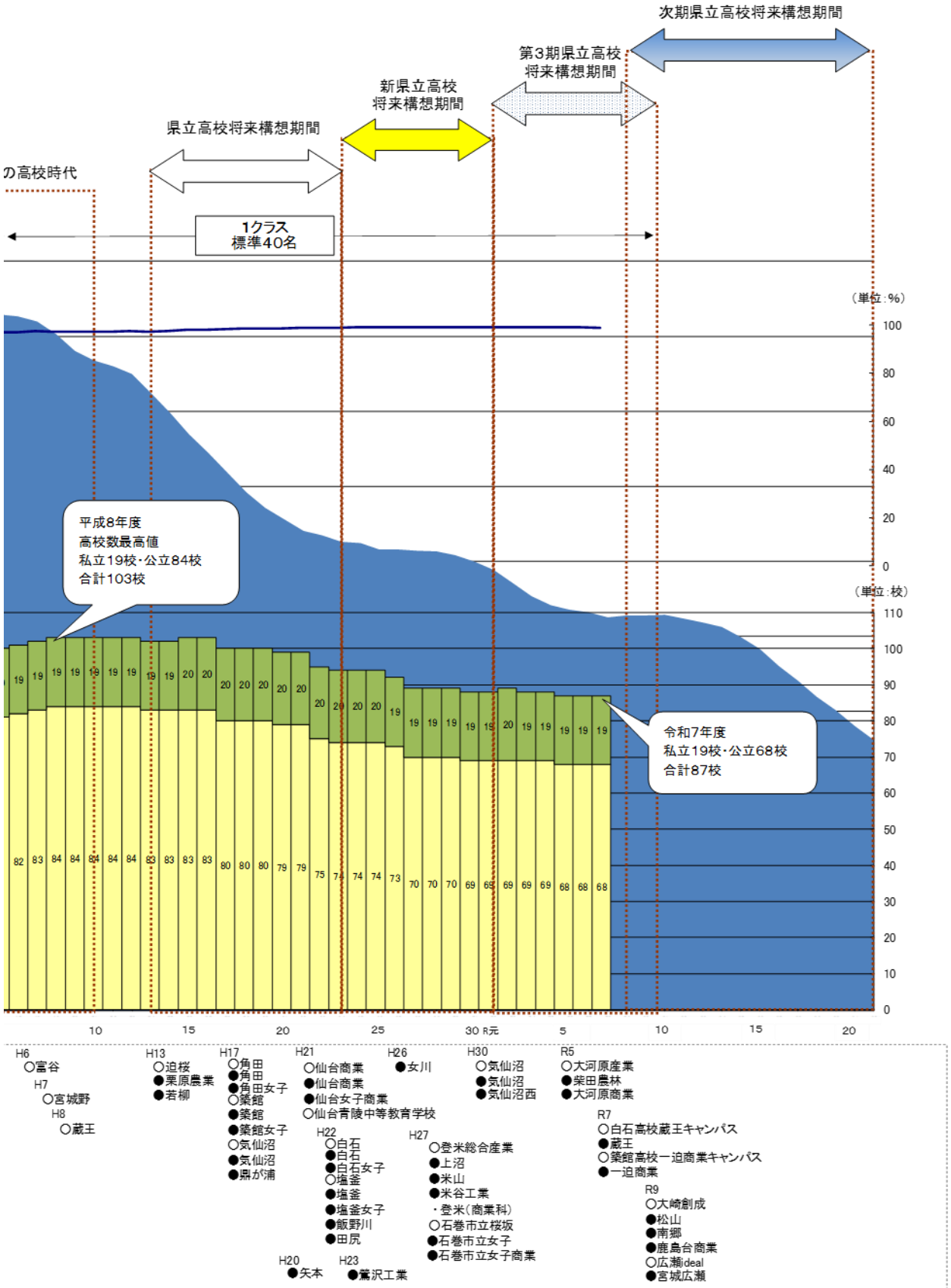
S27 ○米谷工業 ○矢本
S32 ○松島
S37 ○白石工業
S38 ○仙台第三 ○石巻工業 ○田尻
S44 ○鷲沢工業 ○鹿島台商業
S45 ○米山農業（米山）
S48 ○泉 ○中新田 ○一迫商業 ○女川
S50 ○仙台向山
S51 ○多賀城
S52 ○仙台南
S54 ○名取北
S55 ○松山
S56 ○泉松陵
S58 ○宮城広瀬 ○泉館山 ○仙台西
S59 ○利府
S60 ○石巻西 ○気仙沼西
S61 ○柴田
S62 ○仙台東
H6

共学化に伴う校名変更
H17 古川黎明（古川女子）
H18 石巻好文館（石巻女子）
H20 宮城第一（第一女子）
H22 仙台二華（第二女子）
仙台三桜（第三女子）

その他校名変更
H11 本吉響（津谷）
H22 石巻北（河南）

＜私立高校＞

S31 ○古川商業（古川学園）
S34 ○聖ウルスラ学院（聖ウルスラ学院英智）
S35 ●東北商業 ○聖ドミニコ学院
S36 ○東北電子工業（仙台城南）
S38 ○祇園寺（大崎中央）
S44 ○気仙沼家政（気仙沼女子）
S47 ○東北学院榴ヶ岡
S50 ●梅檀学園
S58 ○東陵
H3 ○西山学院


次期県立高校将来構想期間
第3期県立高校
将来構想期間
新県立高校
将来構想期間
県立高校将来構想期間
の高校時代
1クラス
標準40名
（単位：%）
100
80
60
40
20
0
（単位：校）
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
平成8年度
高校数最高値
私立19校・公立84校
合計103校
令和7年度
私立19校・公立68校
合計87校
82 83 84 84 84 84 84 83 83 83 83 80 80 80 79 79 75 74 74 74 73 70 70 70 69 69 69 69 69 68 68 68
19 19 19 19 19 19 19 19 19 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 19 19 19 19 19 19 20 19 19 19 19 19
10 15 20 25 30 R元 5 10 15 20
H6 ○富谷
H7 ○宮城野
H8 ○蔵王
H13 ○迫桜 ●栗原農業 ●若柳
H17 ○角田 ●角田 ●角田女子 ○築館 ●築館 ●築館女子 ○気仙沼 ●気仙沼 ●鼎が浦
H20 ●矢本
H21 ○仙台商業 ●仙台商業 ●仙台女子商業 ○仙台青陵中等教育学校
H22 ○白石 ●白石 ●白石女子 ○塩釜 ●塩釜 ●塩釜女子 ●飯野川 ●田尻
H23 ●鷲沢工業
H26 ●女川
H27 ○登米総合産業 ●上沼 ●米山 ●米谷工業・登米（商業科） ○石巻市立桜坂 ●石巻市立女子 ●石巻市立女子商業
H30 ○気仙沼 ●気仙沼 ●気仙沼西
R5 ○大河原産業 ●柴田農林 ●大河原商業
R7 ○白石高校蔵王キャンパス ●蔵王 ○築館高校一迫商業キャンパス ●一迫商業
R9 ○大崎創成 ●松山 ●南郷 ●鹿島台商業 ○広瀬deal ●宮城広瀬
H15 ○秀光中等教育学校
H26 ●気仙沼女子
R2 ○日本ウェルネス宮城
R3 ●秀光中等教育学校
※○は開校（分校からの独立含む）、●は統合・廃校等による減少を示す。
※データ出典：学校基本調査
※R8以降の生徒数については、推計値。

第２章　高校教育を取り巻く現状と課題

１　第３期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況

○　第３期県立高校将来構想では、東日本大震災からの復旧・復興の進展、少子高齢化や人口減少とそれに伴う社会環境の変化などに対応し、「未来を担う高い志を持つ人づくり」と「未来を拓く魅力ある学校づくり」の２つの観点から本県高校教育の目指す方向性を示し、高校教育改革を進めてきました。

（１）人づくりに向けた取組

○　より良い学びの提供に向けて、地域進学重点校における生徒の学力と進路実績の向上を図るため、探究活動の推進のためのコーディネーターや、地域の将来を支えるものづくり人材の育成と確保等の促進を目指すための地学地就コーディネーターの配置などを通じて、生徒が自らの将来に向け行動できるよう、将来を担う人材育成に向けた取組を実施しました。

○　また、国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、仙台二華高等学校での国際バカロレア・ディプロマプログラムの導入や、ＩＣＴを活用した海外在住外国人講師とのオンライン英会話、海外の高校生との対面・オンライン交流などの英語力エンパワーメントプログラムの実施などを通じて、国際社会に貢献する志を持つ人材育成に取り組みました。

○　さらに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、生徒１人１台端末環境下におけるＩＣＴを活用した探究的な授業づくり等を進めるために、指導法に係る実践研究に取り組み、教員のＩＣＴ活用指導力の向上及びカリキュラム・マネジメントに係る資質・能力の育成等を図りました。

（２）学校づくりに向けた取組

○　高校再編については、適正規模を１学年当たり４～８学級と定め、適正規模に満たない学校については、基準を設け適切に再編を実施してきました。

○　柴田農林高等学校、大河原商業高等学校を再編し、南部地区職業教育拠点校「大河原産業高等学校」を設置するとともに、６次産業化を軸とした新しい学科である企画デザイン科の設置に向けた取組を実施しました。

○　大崎地区においても松山高等学校、鹿島台商業高等学校、南郷高等学校を再編し、令和９年度の開校を予定している大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校の設置に向けて取り組んできました。

○　また、様々な背景を持つ生徒や、多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる新たなタイプの学校「ｉｄｅａｌ（アイデアル）スクール」では、単位制やチューター制により、生徒自らが高校生活をデザインし、夢や希望を実現することができる学校を目指して、令和９年度開校に向けた準備を進めています。

２　高校教育を取り巻く現状と課題

（１）社会経済環境の変化

ア　急速な少子化の進展

○　本県の中学校卒業者数は急速に減少しており、令和７年度の１９，２６５人から令和２１年度には１２，２４０人まで減少する見込みです。特に令和１４年度以降は、これまでの年間１００人から５００人規模の減少を大きく上回り、毎年６００人から１，０００人規模にまで減少ペースが速まり、令和２１年度以降も、減少局面は継続することが見込まれます。

イ　デジタル化の進展

○　生成ＡＩなどに代表されるデジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル社会に対応した資質・能力が求められています。

ウ　グローバル化の進展

○　価値観や文化などのグローバル化が進む中、国際的な視野を持ち、多様性を尊重しながら協働できる力がこれまで以上に重要になっています。

エ　成年年齢の引き下げ

○　平成２８年６月には選挙権年齢が１８歳に引き下げられ、令和４年４月から成年年齢が１８歳に引き下げられたことにより、投票や契約などの社会的責任を伴う行為が可能となったことから、社会的自立に向けた教育の重要性もこれまで以上に増しています。

オ　価値観・ライフスタイルの変化

○　家庭や地域社会における価値観やライフスタイルの変化などの社会的・文化的背景も大きく変化しており、生徒が置かれる環境は更に多様で複雑なものとなっています。

（２）県立高校の現状と課題

○　次に掲げる課題に対応しながら、全ての生徒が将来に希望を持ち、自らの可能性を最大限に発揮できる教育環境の実現が求められています。

ア　学習ニーズの多様化

○　生徒一人一人の興味・関心や進路希望、ライフスタイル等に応じた学びの多様化が進む中で、高校教育に求められる役割は、一層複雑化・高度化しており、こうした状況に対応した教育課程の編成や体制の整備が求められています。

○　本県における学校に登校していない生徒数は増加傾向にあり、在籍者比率（出現率）は全国と比べ高い状況が続いています。また、中途退学率についても全国と比べ高い状況にあり、その背景には学校生活や進路等に関する多様な要因があることから、早期の対応と継続的な支援が求められています。

○　学校に登校していない生徒や中途退学のリスクを抱える生徒への支援においては、予兆の対応を含めた初期段階からの組織的・計画的な支援とともに、民間施設等と連携し、学校内外で多様な教育機会を確保していくことが必要です。全ての生徒にとって魅力ある学校を目指し、学校行事を含む特別活動の充実と学校教育の中核となる授業の工夫改善を進めるなどの学校づくりを進める必要があります。

○　個に応じた教育ニーズの高まりや、特別支援教育についての理解が進み、特別支援学校への入学を希望する生徒が増加しています。また、多様化する教育的ニーズへの対応のため、学びの場の整備やＩＣＴ活用等の教育環境の整備とともに、卒業後の心豊かな生活の実現に向け、地域における支援体制の整備が求められています。

○　さらに、広域通信制高校への入学者数が増加する傾向が見られることから、県立高校における更なる対応が求められています。

イ　地域と連携した学びの推進

○　地域産業を支える人材や地域課題の解決に主体的に関わる人材の育成など、これまで以上に実社会に通じる学びの提供が求められています。

ウ　グローバル化への対応

○　グローバル化に伴い、自国の文化への理解を深めることをベースとして、異なる価値観や文化を理解しながら、国際社会で活躍できる資質・能力を育成することも重要な課題となっています。

第３章　高校教育の創造的再構築に向けた考え方

１　基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。

（１）高校教育の創造的再構築

○　急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。

○　高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的な見直しを行います。

○　その際には、デジタル技術やオンラインの効果的な活用により教育空間を拡張※し、物理的な制約を越え、宮城県全体を一つの「学校」ととらえる学びの環境を整えます。

（２）生徒を主語にした高校教育の実現

○　「学ぶ主体」である生徒の視点から、教育課程や授業の在り方、学校運営等についてとらえ直し、生徒が学びたいと思える授業や教育活動を推進していきます。

○　その実現に向け、教育を学校の中だけの閉ざされた空間でとらえるのではなく、デジタル技術等を有効に活用し、学校、学科の枠を越えた連携や、地域、市町村、研究機関、海外の学校などの外部機関など、多様な外部資源と連携した教育環境が重要です。

○　生徒が画一的な教育課程や教育環境に合わせるのではなく、一人一人が、自分自身のライフスタイルや興味・関心、将来の目標や進路希望に基づき、自らの学びを主体的に選択し、設計できる教育環境を整備します。

○　これにより、生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、将来の社会で自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現します。

（３）質の高い高校教育の実現

○　全ての生徒の可能性を最大限に引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

※教育空間の拡張…教育空間の拡張とは、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えて、学びの場や機会を広げることを指す。具体的には、オンデマンド型や同時双方向型のオンライン授業の活用、複数校をつなぐ合同授業、地域の公共施設や企業・大学などを活用した学習活動などを通じて、生徒が場所や時間にとらわれず、多様な学びにアクセスできる環境を整える取組を意味する。

○　全ての生徒が自らの興味・関心や能力に応じて学びを深めることができるよう、学びの内容や方法を柔軟に選択できる個別最適な学びを推進するとともに、多様な背景や考え方を持つ他者と互いに学び合い、課題解決に取り組む協働的な学びの充実を図ります。

○　個別最適な学びと協働的な学びを相互に関連付け、一体的に展開することで、生徒一人一人の資質・能力を最大限に伸ばし、将来の社会で主体的に活躍できる力を育成します。

２　基本方針

（１）県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。

○　オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。

（２）スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。

○　各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。

（３）少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整えます。

○　オンラインの効果的な活用をはじめとしたデジタル技術の活用と学校間連携の推進など、学校の枠組みを越えた学びの環境を整えることで、生徒が物理的に離れた多様な他者と交流し、互いに学び合い、刺激し合い、自らの可能性を引き出す学習環境を実現します。

（４）デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。

○　オンライン教育などによる場所等にとらわれない柔軟な学びと、対面による直接的なコミュニケーションや実体験を通じた学びを組み合わせることで、教育内容の充実と学習内容の確実な定着を図るとともに、国内外の多様な価値観や文化に触れる機会などを通じて、より生徒の主体性が発揮される学習環境を充実させます。

○　これにより、異なる価値観や文化を尊重できるコミュニケーション能力を育みながら、情報を適切に収集・分析・活用する力や、課題を発見し、解決策を導くことによる新たな価値を創造する資質・能力を育成します。

（５）地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。

○　地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフ

※スクール・ミッション…教育委員会等が定める各高等学校に期待される社会的役割等のこと。具体的には、各学校の存在意義、役割、目指すべき学校像を指す。

ィールドワークや地域課題をテーマにした探究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。

（６）多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進めます。

○　生徒一人一人の状況や特性に応じた学びを保障するため、履修方法や教育課程の工夫、オンライン教育などのデジタル技術の活用などにより、個に応じた多様な学びと学習者を中心とした生徒の主体的な学びを実現するとともに、特別な配慮や支援を必要とする生徒を積極的に支援するなど、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができる体制を整えます。

３　学校配置の考え方

（１）圏域の考え方

○　第３期までの構想では、県内を７つの地区に区分していましたが、急速な少子化に伴い中学校卒業者数が大きく減少することから圏域を広くとらえ、各教育事務所の所管区域に基づき、南部、中部、北部、東部、気仙沼の５つの圏域へと再編します。

○　なお、この圏域の再編の考え方においては、仙台市内にある県立高校は、中部地区に含まれます。

○　また、学校間連携やオンラインの効果的な活用により、教育空間を拡張し、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えた学びを実現し、宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整えていきます。

○　さらに、生徒の多様な進路希望や学びのニーズに対応しつつ、市立高校や私立高校と協調しながら、県立高校としての果たすべき役割を整理し、地域全体で効率的かつ質の高い教育機会を提供できる体制を構築します。

○　こうしたことから、以下の考え方に基づき学校を配置します。

（２）普通科の特色強化と進学支援の充実

○　普通科については、スクール・ミッションをこれまで以上に明確化していくとともに、普通科の改革の推進や、中部地区以外の圏域に設置する学力と探究を極める進学系拠点校（以下「進学系拠点校」という。）と中部地区の大学進学を重視する生徒が多い学校（以下「進学系高校」という。）間における国内外の難関大学等への進学に対応した教育支援の充実など、一層の魅力化を推進します。

（３）専門学科における学科横断的な学びの推進

○　専門学科については、複数学科を統合した学びだけでなく、学科間の知識や技術を横断的に学べる学習機会を設けることで、生徒数の減少が続く中でも、生徒の興味・関心や進路に応じた柔軟な学びを保障します。

○　また、本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる基幹校においては、他の高校や他の学科、企業、大学との連携やオンラインの効果的な活用などにより、先端技術を含むこれからの専門学科に必要な教育を提供します。

（４）多様な学びに対応した高校配置

○　地域バランスを考慮し、生徒一人一人の学習を支援できるよう柔軟な学習時間やカリキュラム設定など、生徒の多様な生活・学習スタイルに対応したｉｄｅａｌスクールや、多部制定時制高校、通信制高校を配置します。

（５）地理的条件等に応じた教育環境の整備

○　早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。

○　なお、通学困難地域校については、入学者数が２年連続して募集定員の１／２以下となった場合には、翌年度からの募集停止を検討します。ただし、次の条件のいずれかに当てはまる場合、存続について検討します。検討に当たっては、所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等、所在市町村の主体的な関わり方を考慮します。

①　通学困難地域校について、同一市町村内に当該校以外の学校がない場合に限り、所在市町村の主体的な関わり方（所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等）を考慮し、募集停止の適否について検討します。

②　①により存続となった場合にも入学者数の増加が見込まれない場合には改めて募集停止を検討します。

４　学校規模の考え方

○　第３期県立高校将来構想では、学習活動や学校行事の充実など、活力ある教育環境を確保するため、適正な学校規模として１学年４～８学級を目安とし、これを満たさない学校については、地域における高校の在り方を検討した上で、学習環境や課外活動の充実を図ることを目的として再編を検討することとしていました。

○　しかしながら、これまでの県立高校の学級減や学科改編、再編のペースを上回るスピードで少子化が進行しているのが現状です。

○　本構想においては、１学年当たりの規模の目安は定めないものの、今後一層進む人口減少を見据えながら、圏域ごとに必要な学級数を設定し、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保するものとします。

○　必要学級数の設定に当たっては、公立高校の役割を踏まえ、公私立における経済的負担の状況変化や各校の特色を踏まえた生徒の志望動向を考慮しながら検討を行います。

５　各圏域における再構築後の姿

○　「３　学校配置の考え方」及び「４　学校規模の考え方」を踏まえ、少子化のスピードを考慮し、各圏域における再構築後の姿は下記のイメージのとおりとなります。

＜創造的再構築後のイメージ＞

VRを活用した授業のイメージ



操船シミュレーター実習のイメージ



オンライン活用・海外交流のイメージ

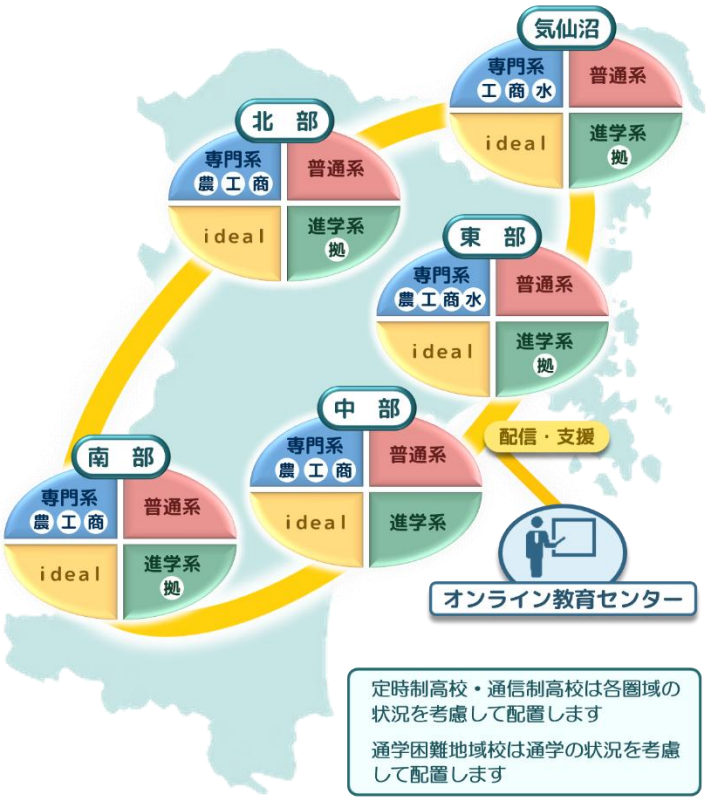


科学技術高校のイメージ



栽培実習のイメージ





ｉｄｅａｌスクールのイメージ



第４章　高校教育の創造的再構築に向けた取組

１　県立高校教育の質の向上の方向性

（１）志教育の一層の推進

○　本県では、小・中・高等学校等の全時期を通じて、人や社会と関わる中で、社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていくことを理念として、志教育を推進してきました。

○　これまで、各学校においては、小・中・高等学校との異校種間交流や、インターンシップ等の体験的な学習を通して、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成するとともに、他者と協働しながら、より良い社会づくりに参画するために必要な資質・能力等を育成するシチズンシップ教育などに取り組んできました。

○　成年年齢の引き下げにより、高校での学びが社会と直接的に結び付く可能性が高まっていることから、地域や市町村等と連携し、地域課題の解決に向けた探究的な学びを推進するなど、学校で学ぶ知識・技能と実社会や職業との関連を意識させ、生徒の主体的に学ぶ意欲や将来の生き方を考える態度の育成に向け、高校段階での志教育を一層進めます。

（２）確かな学力の育成

○　生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、教科ごとの基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のほか、思考力・判断力・表現力等の多面的な学力の育成を図ります。また、生徒の学力や学習進度に応じた学習環境を整えることで、生徒一人一人の学びをきめ細かに支援します。

○　急速に進展するデジタル社会や高度化する産業ニーズに対応できる科学技術分野の人材や地域の産業の担い手の育成を目指した、これからの時代にふさわしい学びを教育課程に取り入れていきます。また、高度な技術や実践的な知識・技能の学びの機会として企業や大学等と連携した学びの環境を整えます。

○　ＳＴＥＡＭ教育※や教科等横断的な学習を通じて、特定の教科の枠にとらわれず、複数の教科の知識や技能を関連付け統合する力や、様々な情報を収集・分析・活用する力を育て、より深く、多角的に物事を理解し、実社会の課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成します。

○　グローバル化の進展により、経済や情報、文化の面で世界との関わりが密接になる中、県内にも多数の外国人労働者が在住し、他国の文化的背景を持つ人材と協働していくことが求められています。自国の文化への理解を深めながら、国際交流を通じて多様な価値観や文化的背景を理

※ＳＴＥＡＭ教育…科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広義の文芸（Art）、数学（Mathematics）の諸領域・各教科等を横断しながら、実社会で課題発見・解決に必要となる本質を見抜き考える力や新たな価値を生み出す創造力等を育む教育のこと。

解し、外国人との協働に必要な知識や技能を有した、国際社会で活躍する人材を育成します。

○　デジタル技術の一層の進展やオンライン教育の導入など、新たな取組が導入される学習環境においても、安心して学習が行える体制を整えるとともに、災害や感染症などのリスクにも対応し、変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、教育環境の充実を図ります。

（３）多様なニーズに対応した教育の推進

○　生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働力などの資質・能力を育みます。

○　生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。

（４）教育ＤＸの推進

○　生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ＩＣＴやＡＩ等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。

○　人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を越えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。

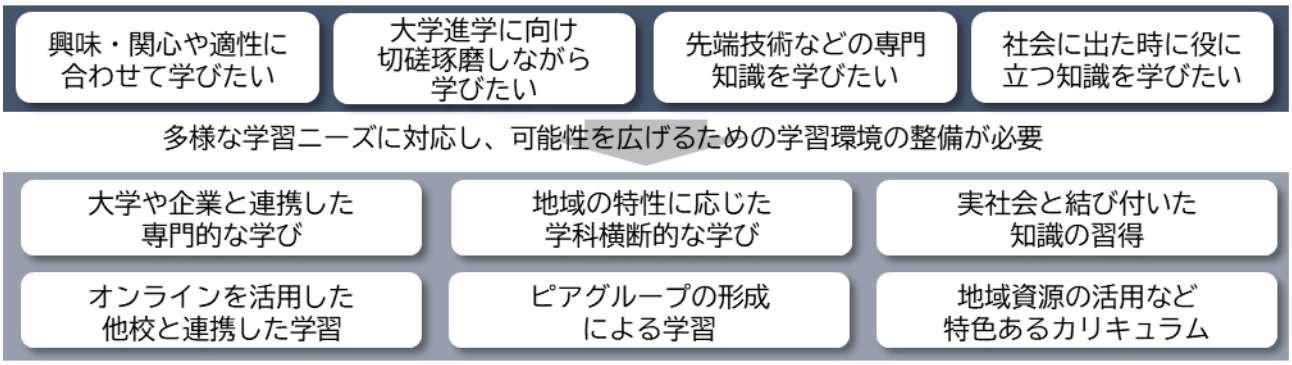
○　登校に不安を抱えている生徒や、病気等により長期療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室と教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めることなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。

（５）地域と学校の連携・協働体制の推進

○　全国募集や特色ある教育プログラムの実施など、市町村や地域の関係団体と連携することで、地域の特性となる地域資源を活用した多様な学習環境や学習機会を設け、魅力ある学校づくりを推進し、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びを提供します。

２　時代のニーズに対応した高校の魅力化

○　本県の高校教育においては、第２章で確認したような現状と課題があることを踏まえ、オンライン教育の活用やピアグループ※等の協働学習体制※の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境や、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要があります。



（１）普通科系の学び

①　圏域ごとに高い学力と探究力を身に付けることを目指す進学系拠点校等を配置し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備します。

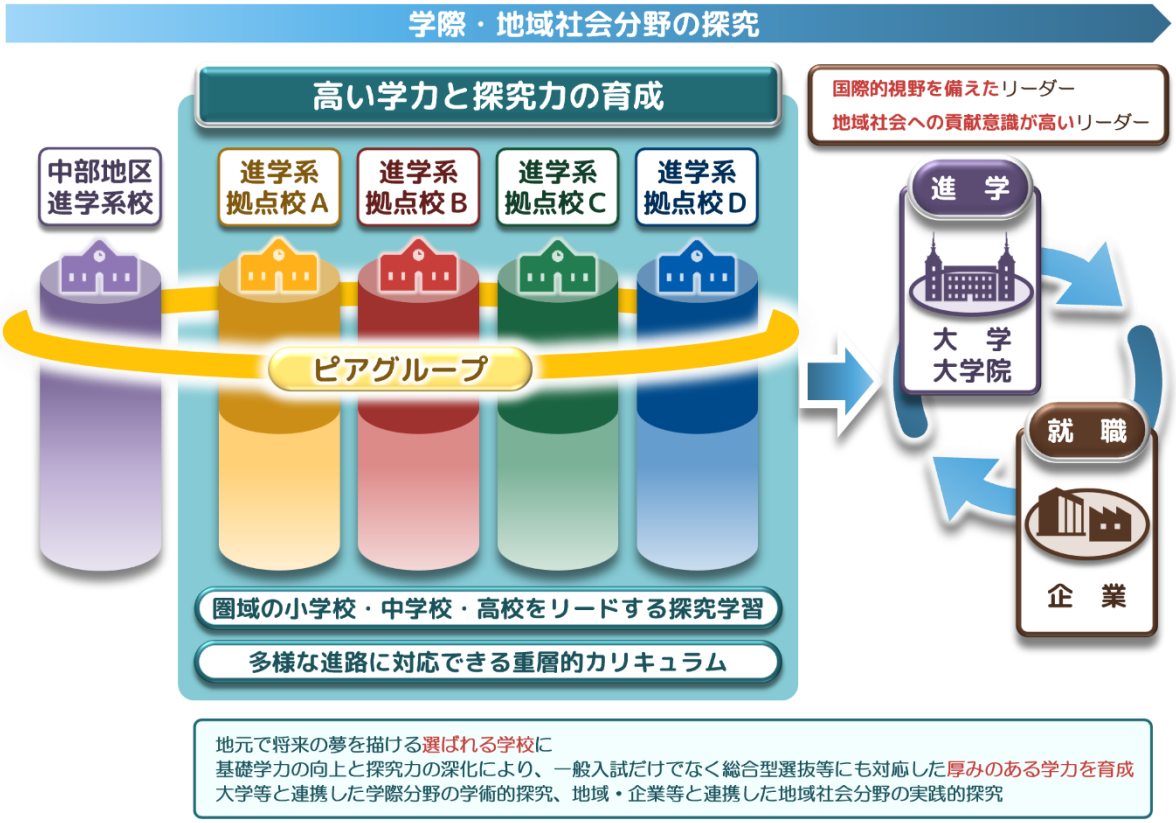
○　オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の進学系拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等を、ピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。

○　また、ピアグループの生徒同士が一堂に集まる合同での学習会や進路の実現に向けた相談の場を設定するなど、進学意欲の高い生徒や特定分野への進学を希望する生徒を対象とした指導の充実を図ります。

○　これにより、進学意欲の高い生徒や特定分野に関心を持つ生徒が、切磋琢磨しながら主体的に学び、進路実現に向けた力を育むことができます。

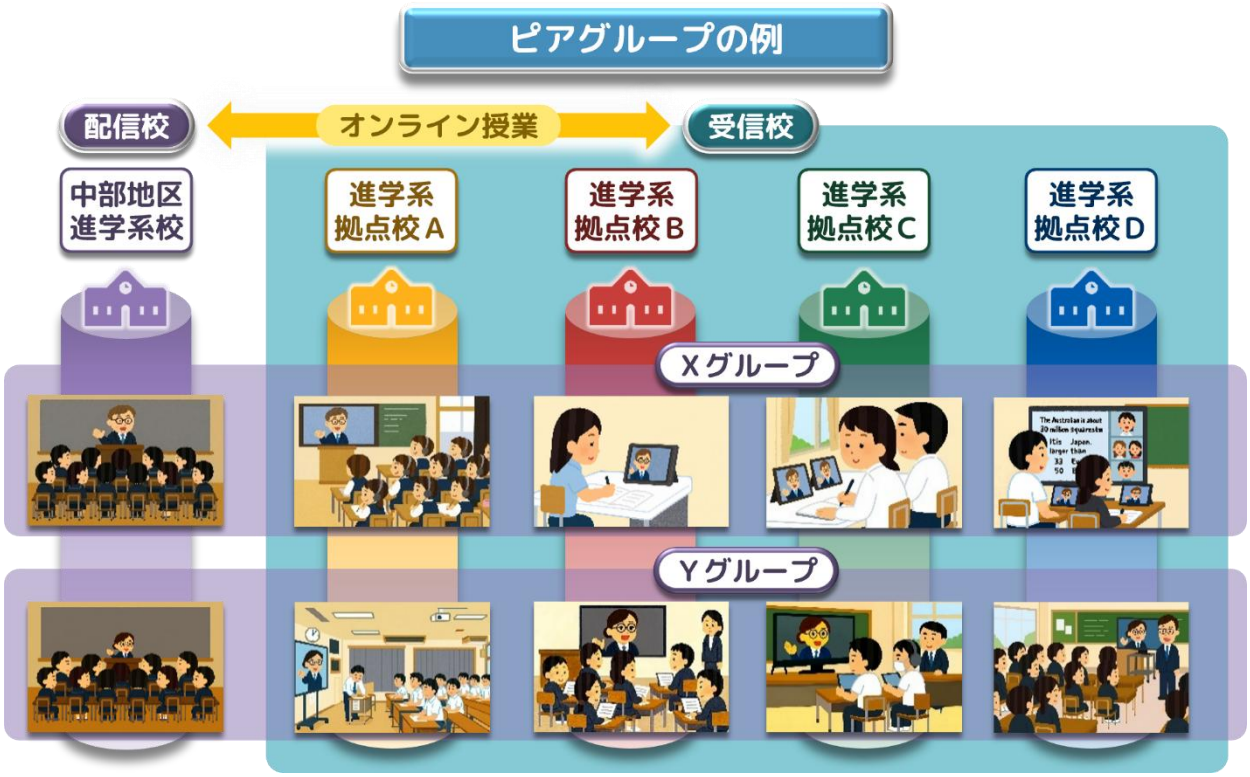
※ピアグループ…希望する進路や目的が同じ生徒同士が学校の枠を越えて形成するグループ。
※協働学習体制…ピアグループなどの複数の生徒が自分の学校内にとどまらず、互いに協力して課題や探究活動等に取り組むことができる仕組み。

＜進学系拠点校のイメージ＞



＜ピアグループのイメージ＞

○　希望する進路や学習状況に応じてグループを形成し、オンライン授業の活用により、学校の枠を越えた学習環境を整備する。



② 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。

○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で活きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。

○ 大学との連携を一層強化し、大学での特別講義の受講や大学生との合同探究活動などを通じて、高度な知識や最先端の研究に触れることのできる機会を設定し、学問への関心や探究心を高めます。

○ 小規模校をはじめとする高校間でのオンラインを活用した授業や地域との連携・交流により、協働的な学びの機会を創出し、社会と結び付いた実践的な学びの充実を図ります。

③ 中高一貫校については、６年間を通した学習の効果を最大限生かすことができるよう、中等教育学校や併設型中高一貫校、連携型中高一貫校等の設置形態の転換も含めて、最適な在り方を検討します。

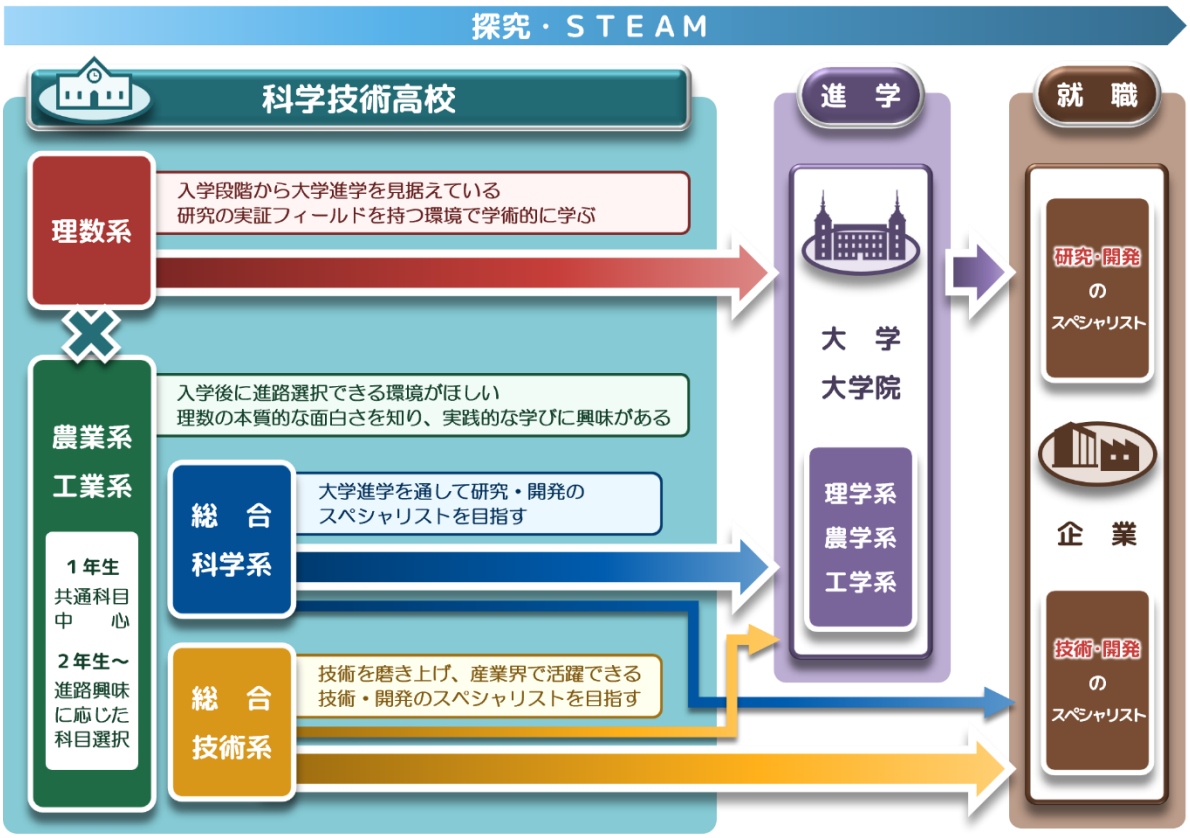
（２）専門学科系の学び

① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。

○ 研究・開発を志す生徒には学術的な学び、技術の磨き上げを目指す生徒には実践的で専門的な学びを提供することで、生徒の多様な進路希望に応じた知識・技能を総合的に育成し、生徒が自らの可能性を最大限に発揮して新たな領域を切り拓くことができる環境を整えます。

○ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的に行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討します。

＜科学技術高校のイメージ＞



② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。

○ 農業、工業、商業などの専門分野ごとの特色や地域資源を最大限に活かし、学校と企業の連携を強化しながら、地域の産業や課題解決に直結する学びの機会を創出するとともに、地域や学びの特性に応じた魅力ある教育環境を整備します。

○ 実践的な学びの場として、キャンパス制による農場などの施設の活用などを通じて、分野横断的な学びや実践的な学びの機会を創出し、専門教育の充実を図ります。

＜各専門分野の学び＞

ア　農業系の学び

○　ＡＩやＩｏＴ、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れることで、実践的かつ高度な知識・技術を習得できる学びを充実させます。

○　また、地域の産業・自然・文化などの特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置します。

イ　工業系の学び

○　生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定します。

○　また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、ＡＩやＩｏＴなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備します。

ウ　商業系の学び

○　地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるＡＩなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、農業や水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置します。

エ　水産系の学び

○　水産に関する基礎的な知識・技術に加え、ＡＩやＩｏＴなどを学びに取り入れるほか、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められる能力を身に付けるため、商業など他学科と連携し、水産資源の６次産業化を含む生産から製造・販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置します。

○　また、地域産業や社会との結び付きを意識した実践的な学習として、海洋資源を活用した探究やフィールドワークなど、地域の特色を活かした学びの機会を提供します。

＜水産系の学びの例＞

調理に関する実習



出典：水産高校ホームページ

操船シミュレーター実習



出典：気仙沼向洋高校

宮城丸　長期航海



出典：水産高校ホームページ

オ　家庭・看護・福祉系の学び

○　家庭や看護に関する学びは、地域の福祉や医療を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図ります。

○　福祉に関する学びは、介護福祉士としての実務者の育成だけでなく、介護ロボットやＩＣＴの利活用、介護食の開発など、福祉に関連する多角的な視野を身に付けることを目的とし、幅広く学べる学科を設置します。

カ　体育系の学び

○　実技によるスポーツの実践だけでなく、心身の健康の保持増進や、スポーツ栄養、トレーニングなど、幅広い分野の知識・技能を総合的に身に付け、社会の多様な場面で専門性を発揮できる人材育成を目指します。

キ　様々な専門分野の学び

○　美術や観光、災害等に関する学びについても、生徒の学習ニーズや希望する進路に応じた適切な選択科目・学校設定科目のより一層の充実を図り、時代の変化に応じた魅力ある学びを提供します。

③　総合学科での学び

○　普通教育と専門教育を総合的に学習できる学科として、多様な系列や選択科目を設定できる柔軟性を活かし、生徒の多様な進路希望に対応していきます。また、地域の実情に応じた総合学科の配置についても検討していきます。

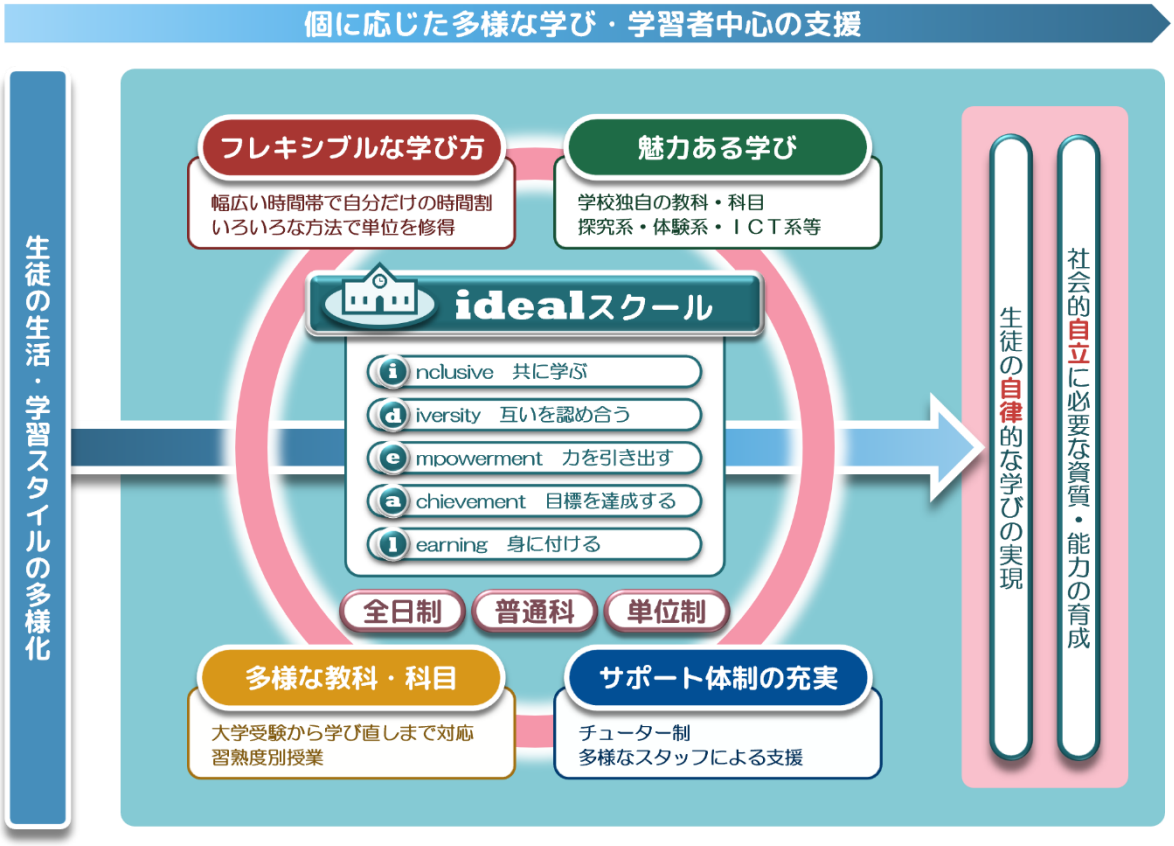
３　多様な学びの在り方

（１）ｉｄｅａｌスクール

○　生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のｉｄｅａｌスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。

○　ｉｄｅａｌスクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。

＜ｉｄｅａｌスクールのイメージ＞



（２）定時制・通信制の在り方

○　定時制高校の現状を踏まえながら、ｉｄｅａｌスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討します。

○　通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。

（３）特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

○　配慮や支援の有無に関わらず、互いを尊重し協働できる環境の整備として、高校と特別支援学校の併置や連携等による、高校と特別支援学校の生徒の交流及び共同学習※を通じて、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進を図ります。

○　通級による指導のほか、別室支援等による多様な支援体制を充実させ、生徒一人一人の学習や学校生活への適応をきめ細かく支援します。

４　小規模校の学びの在り方

○　小規模校については、生徒の人間関係の固定化が生じやすいことや、多様な価値観に触れる機会が少ないこと、また、教職員が少人数となることなど教育資源に限りがあることから、学校単独では個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが困難な状況にあるため、オンラインや地域連携などを活用し、教育環境を整えることが必要です。

（１）オンラインの効果的な活用推進

○　小規模校においても、教科・科目の選択肢の幅を広げられるよう、オンライン授業などを効果的に活用することで、学びの質と学習機会を確保します。

（２）地域連携や学校間連携の取組

○　小規模校単独では実施が難しい教育活動の機会の確保として、地域資源や地域課題に着目した、地域と密接に関わる探究的な学習機会の創出を通して小規模校ならではの学校の特色化や魅力化を図り、市町村や地域の関係団体等と連携・協働した学校づくりを推進します。

○　学校間の連携による学習機会を提供することなどを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会を充実させ、コミュニケーション能力や社会性を育む教育活動の機会を確保します。

５　オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

（１）学校間の相互配信によるオンライン授業等

○　オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の進学系拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「２　時代のニーズに対応した高校の魅力化（１）普通科系の学び」）

○　オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。

※共同学習…高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）第１章第６款２ 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携において、「他の高等学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校及び大学などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。」とされている。

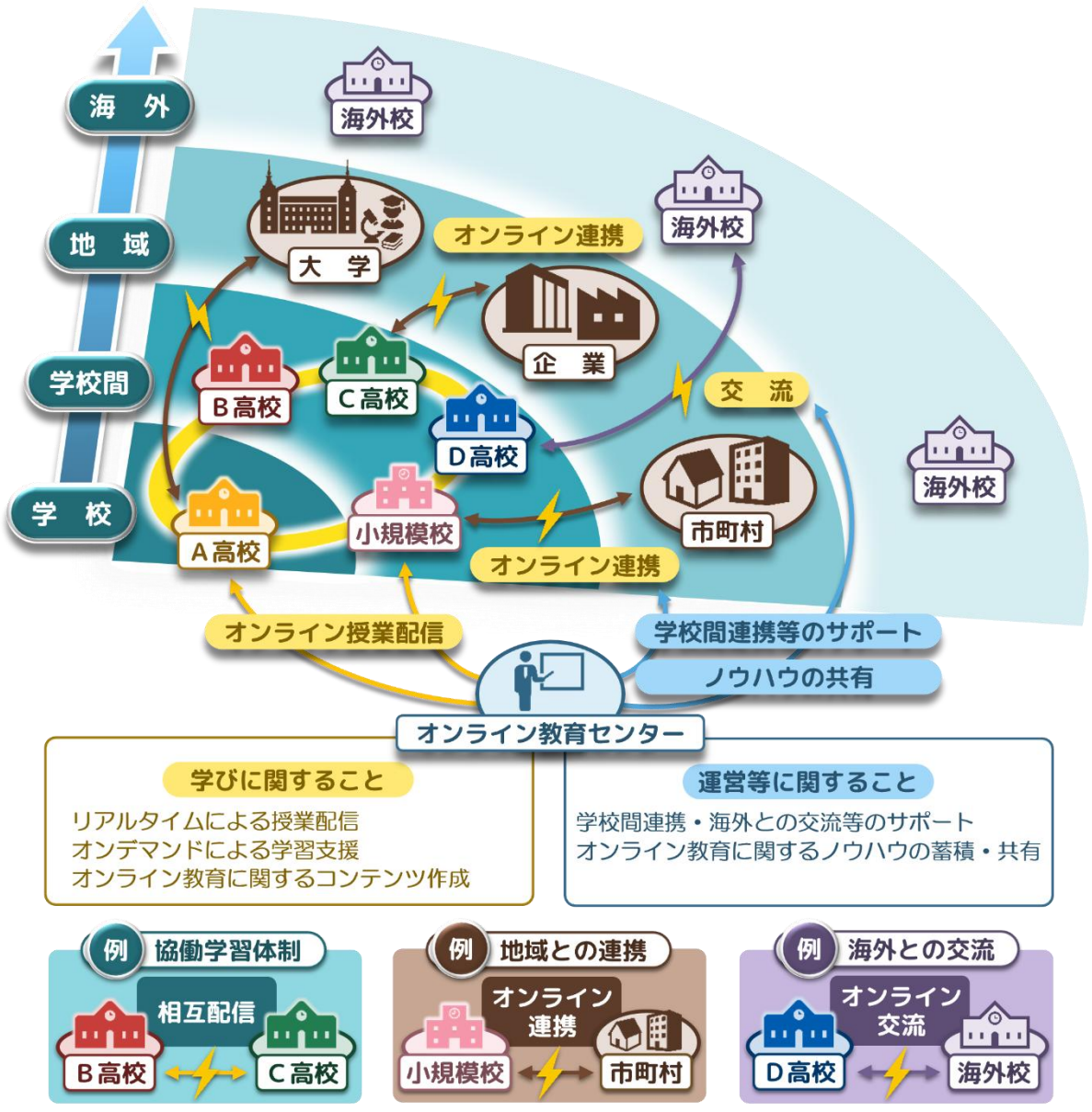
（2）オンライン教育センターの設置

○　オンライン教育センター※の設置により、学びの質を確保するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備します。

○　オンライン教育センターを拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。

○　従来の遠隔授業の実施を通じて得られた成果や課題を整理・分析し、その知見をもとに、教材の整備、教員間の指導ノウハウの共有、オンラインシステムの安定運用体制の構築などを行い、オンライン教育センターの効果的な運用を図ります。

＜教育空間の拡張のイメージ＞



※オンライン教育センター…複数の学校等に向けてオンラインで授業を配信する拠点。これにより、生徒の多様な学習ニーズに応じた教育課程の提供等が可能となり、小規模校をはじめとする各学校における学びの質を確保することにつながる。

＜圏域ごとの今後の必要学級数の推移及び再構築後の姿＞

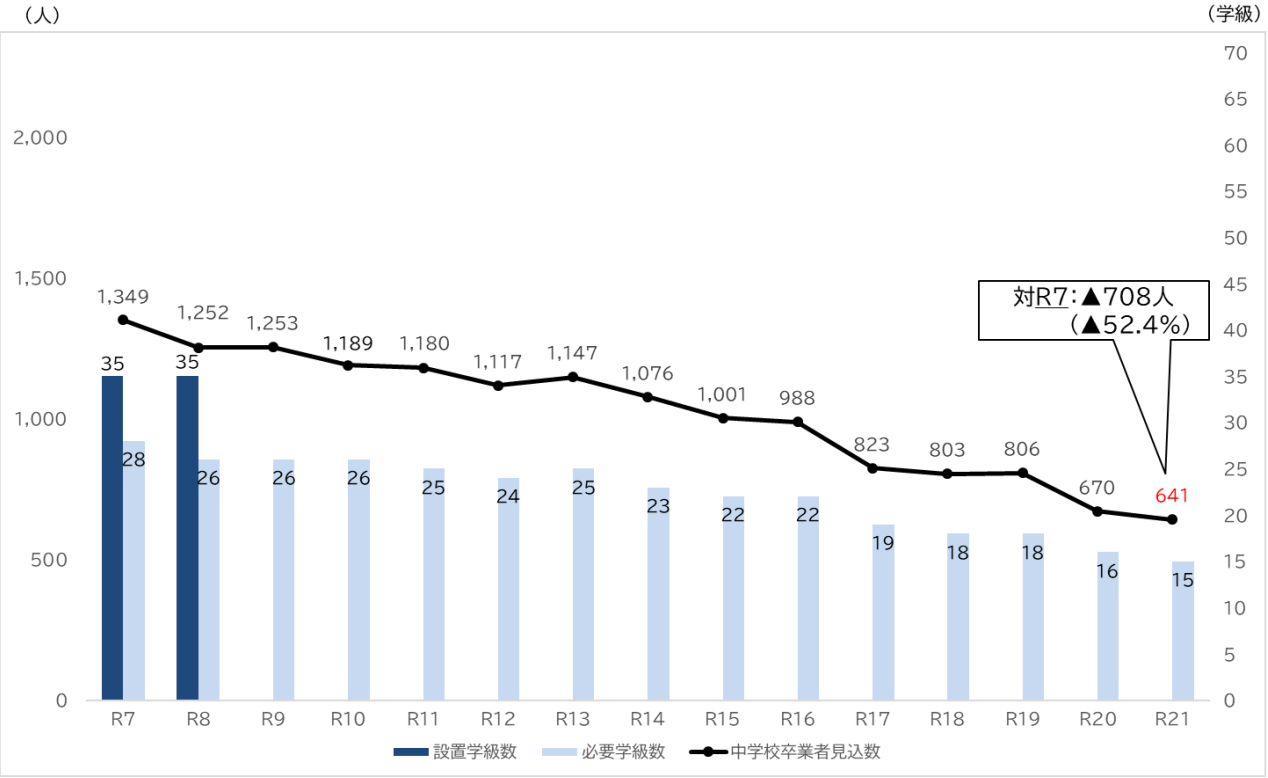
①南部地区

【現状】

令和７年度　１，３４９人（中学校卒業者見込数）／全日制３５学級（設置学級数）

【令和２１年度の姿】

令和２１年度　６４１人（中学校卒業者見込数）／全日制１５学級（必要学級数）



○　大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びを確保します。

※必要学級数…１学級当たり４０人として推計している。

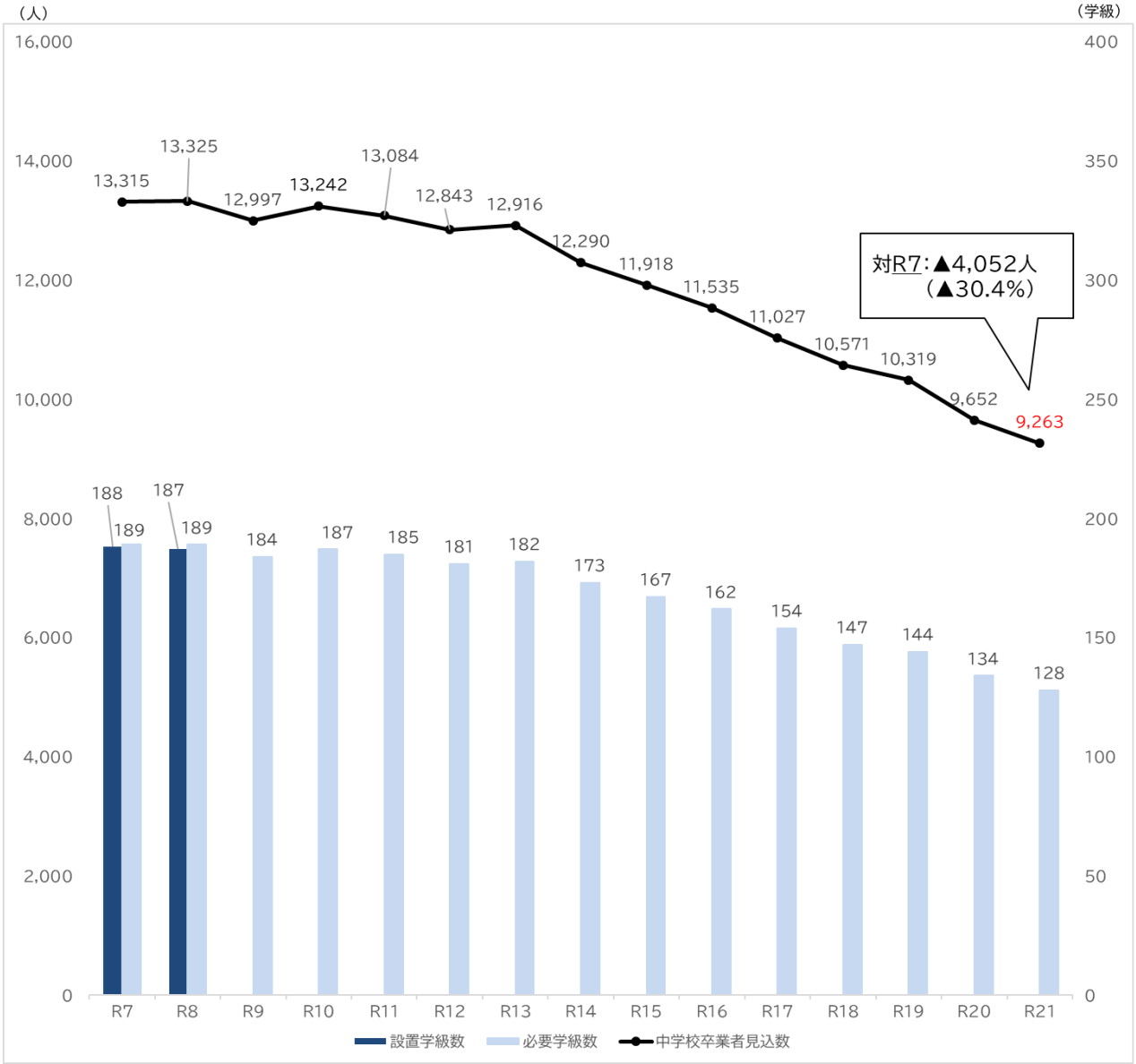
②中部地区

【現状】

令和７年度　１３，３１５人（中学校卒業者見込数）／全日制１８８学級（設置学級数※）

【令和２１年度の姿】

令和２１年度　９，２６３人（中学校卒業者見込数）／全日制１２８学級（必要学級数※）



○　大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学びを確保します。

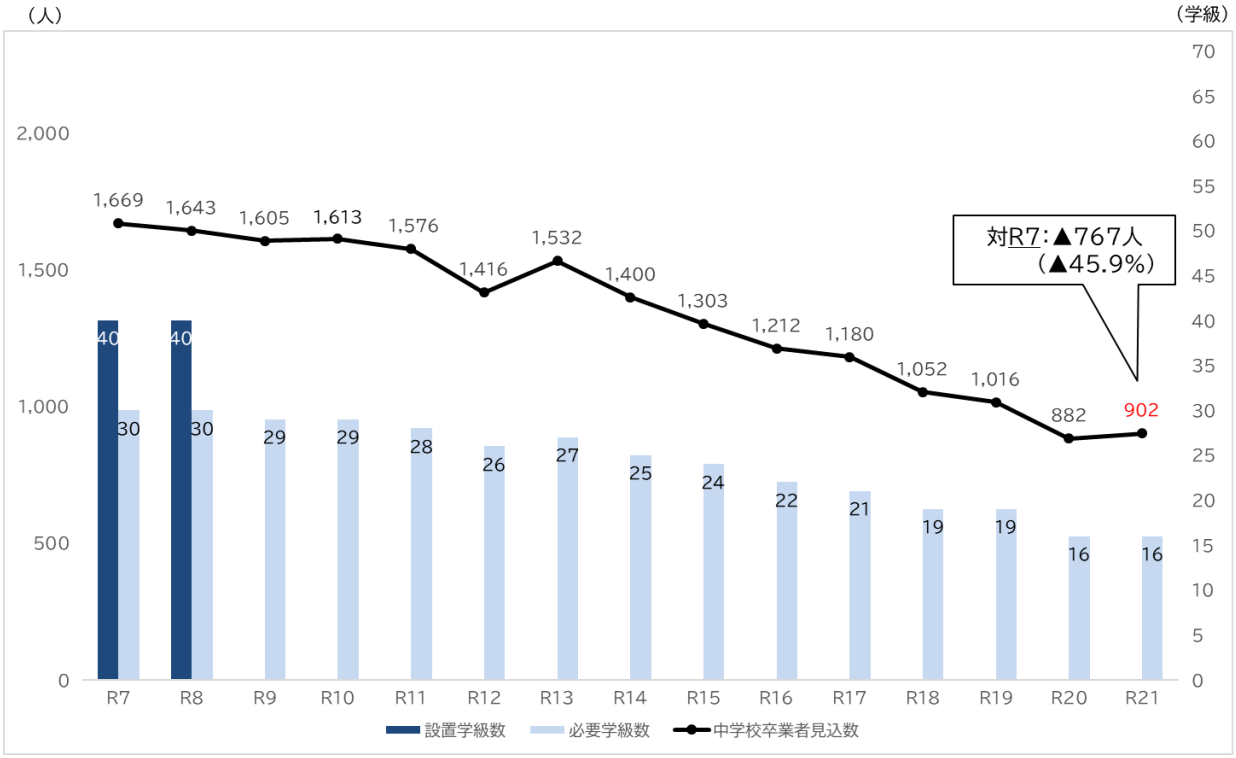
○　大学や企業との連携による先端技術を学べる農業系、工業系の専門学科の基幹校を配置します。

※設置学級数、必要学級数…中部地区の設置学級数及び必要学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

③－１　大崎地区

【現状】

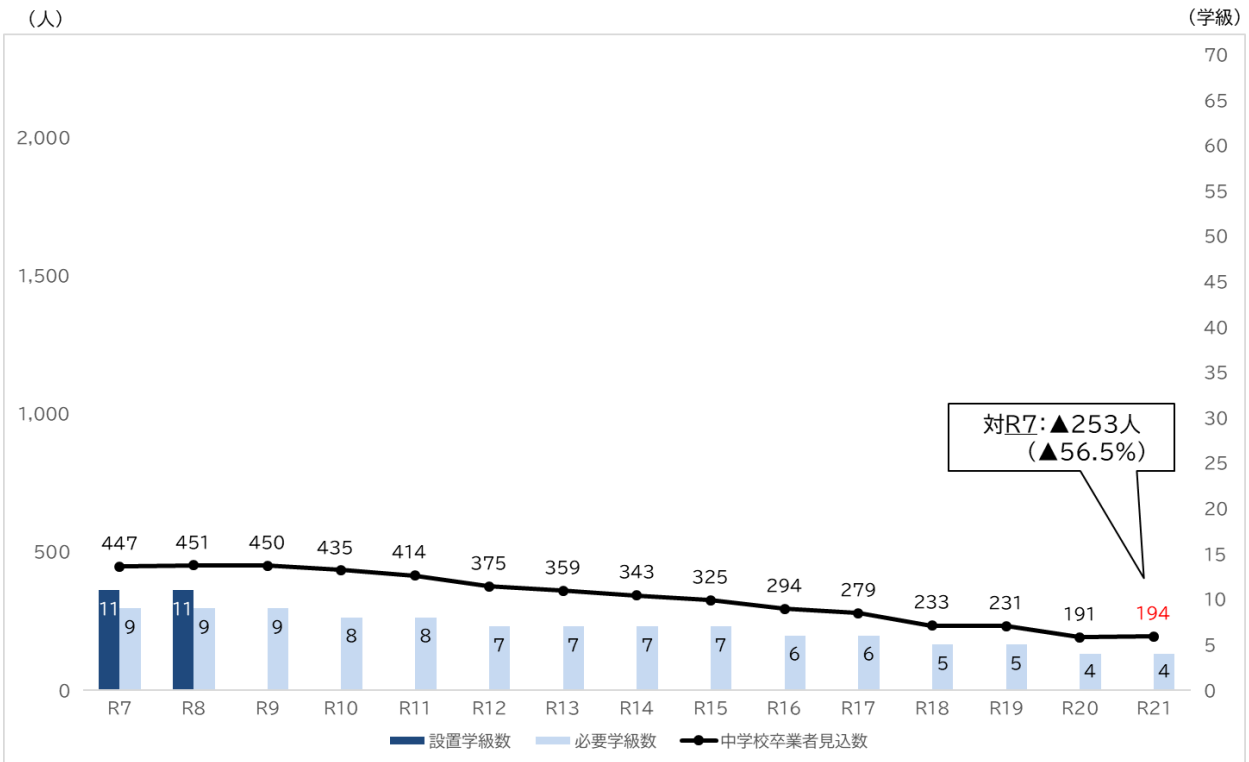
令和７年度　１，６６９人（中学校卒業者見込数）／全日制４０学級（設置学級数）



③－２　栗原地区

【現状】

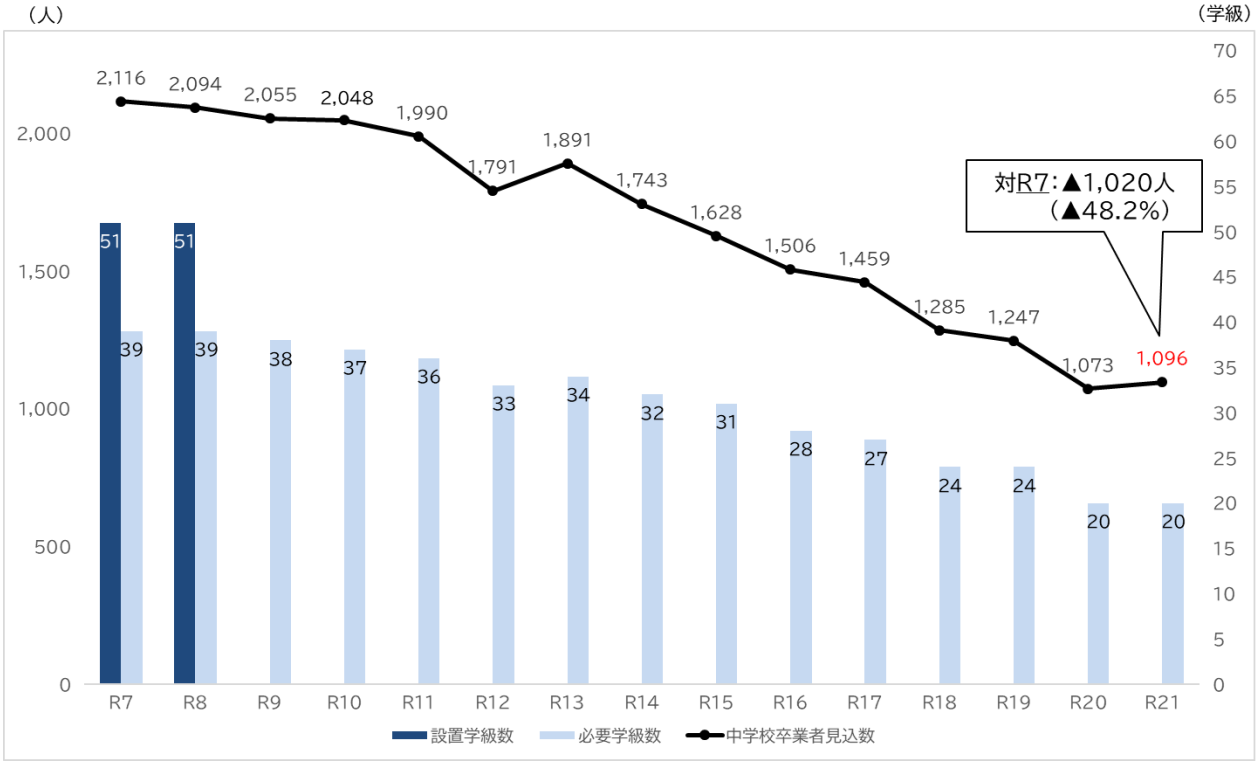
令和７年度　４４７人（中学校卒業者見込数）／全日制１１学級（設置学級数）



③北部地区（大崎地区＋栗原地区）

【令和２１年度の姿】

令和２１年度　１，０９６人（中学校卒業者見込数）／全日制２０学級（必要学級数）

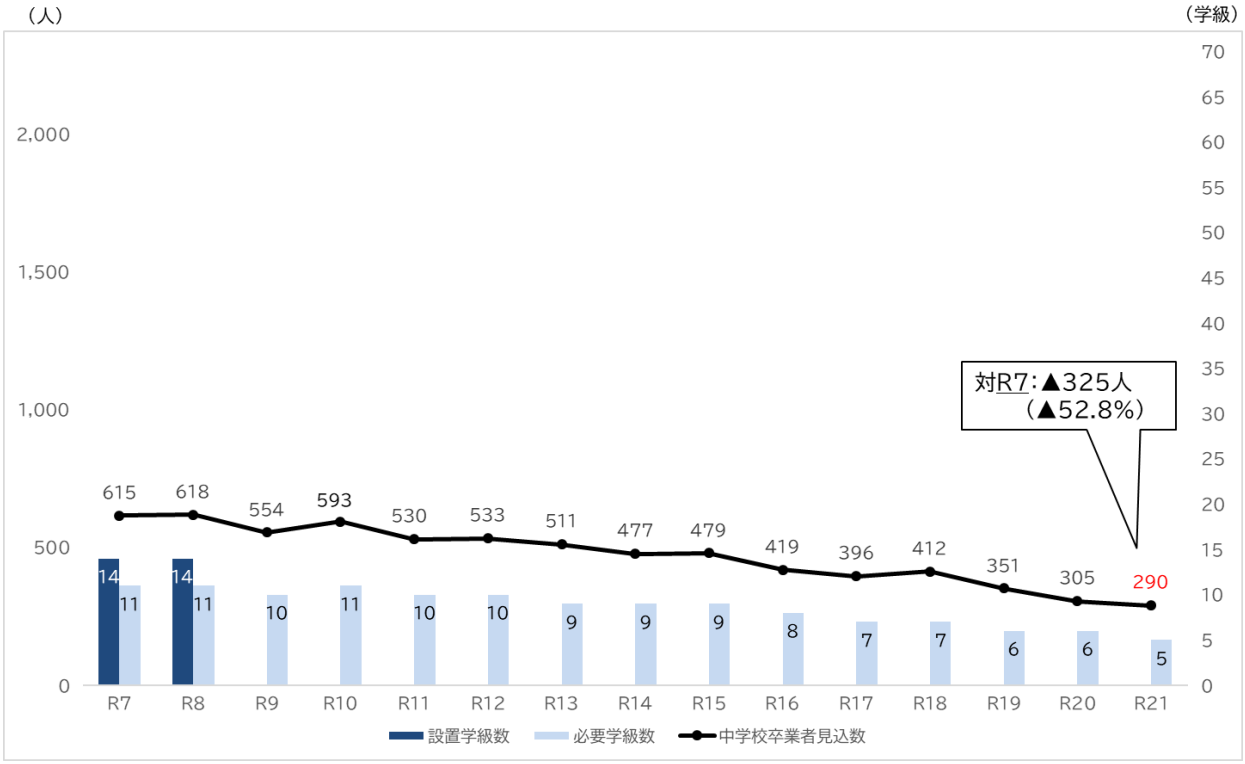


○　大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びを確保します。

④－１　登米地区

【現状】

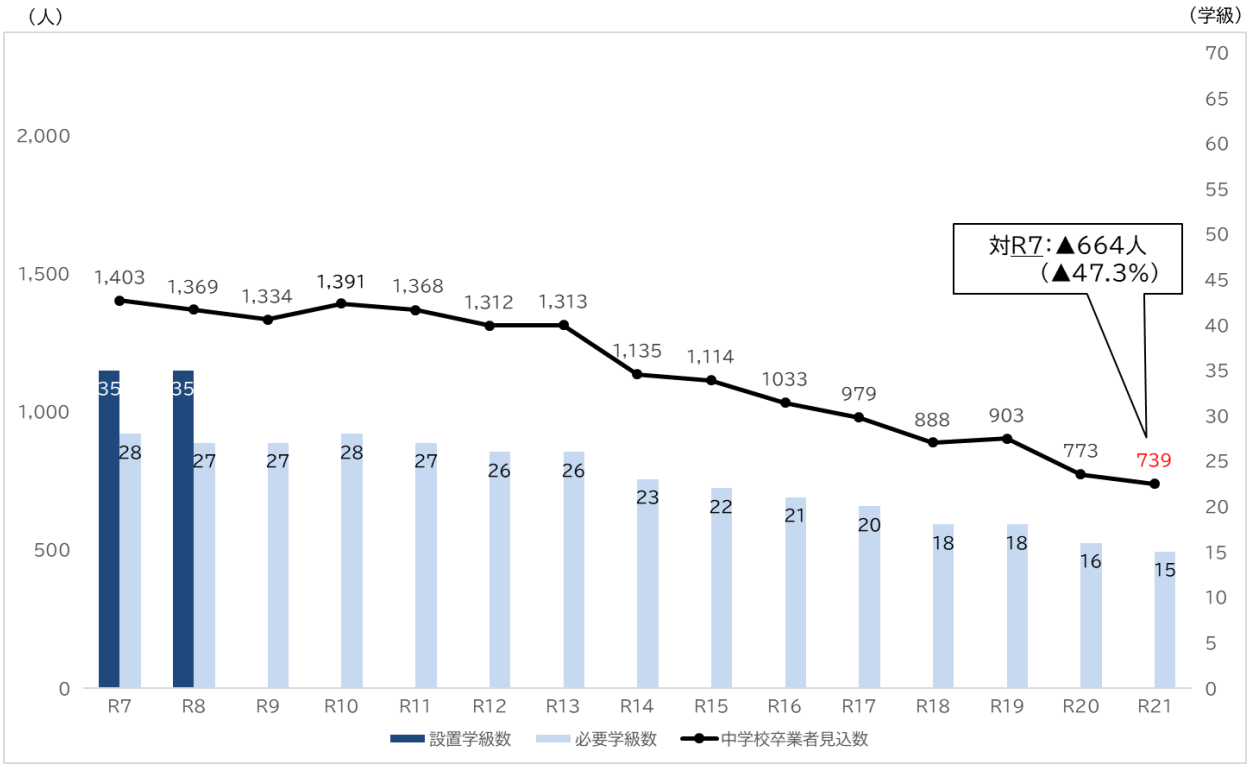
令和７年度　６１５人（中学校卒業者見込数）／全日制１４学級（設置学級数）



④－２　石巻地区

【現状】

令和７年度　１，４０３人（中学校卒業者見込数）／全日制３５学級（設置学級数※）

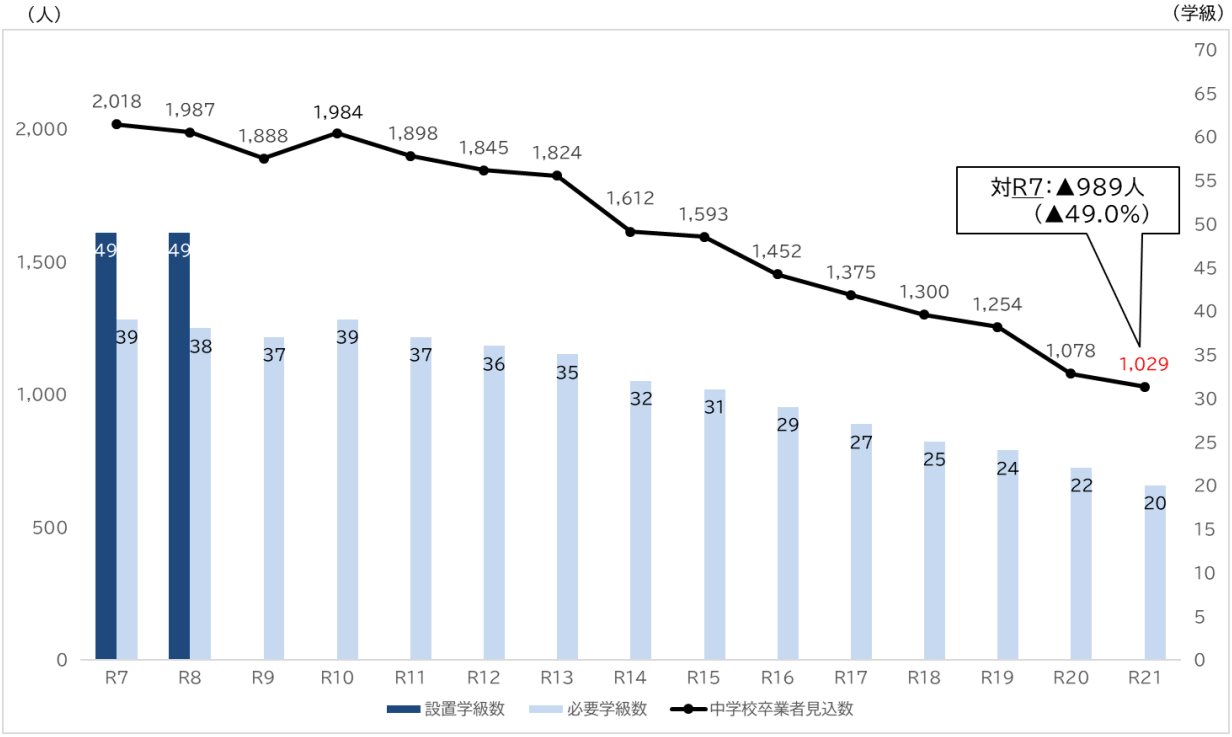


※設置学級数…石巻地区の設置学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

④東部地区（登米地区＋石巻地区）

【令和２１年度の姿】

令和２１年度　１，０２９人（中学校卒業者見込数）／全日制２０学級（必要学級数※）



○　大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系、商業系や水産系の学びを確保します。

※必要学級数…東部地区の必要学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

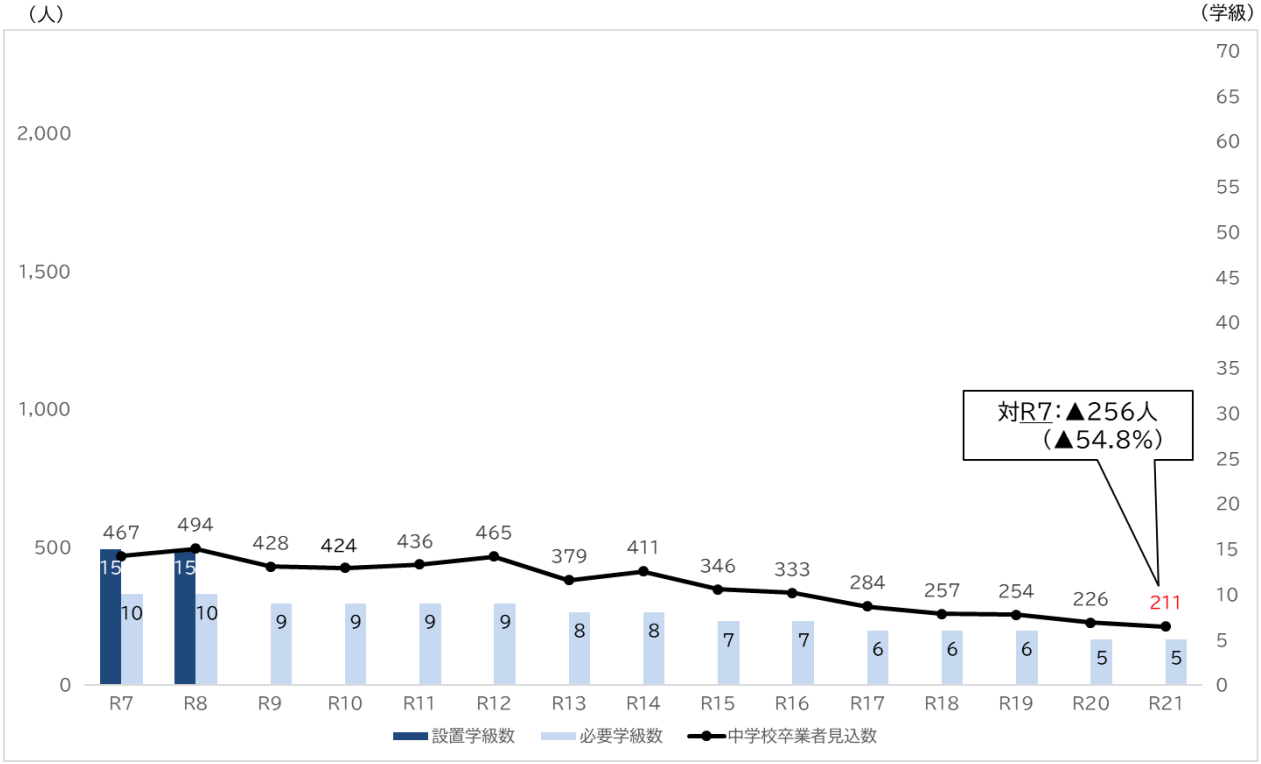
⑤気仙沼地区

【現状】

令和７年度　４６７人（中学校卒業者見込数）／全日制１５学級（設置学級数）

【令和２１年度の姿】

令和２１年度　２１１人（中学校卒業者見込数）／全日制５学級（必要学級数）



○　大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、工業系、商業系や水産系の学びを確保します。

第５章　将来構想の推進

１　学校・家庭・地域の協働の必要性

○　将来構想の推進に当たっては、コミュニティ・スクールの仕組みも積極的に活用するなどして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を分担しながら連携・協働することが重要です。

○　地域の特色や多様な地域資源を教育に取り入れ、実社会と結び付いた学びを展開できるよう、企業や関係団体等との連携体制を構築します。

○　地域の実情や生徒の教育的ニーズに即した魅力ある高校教育の実現に向けて、市町村との連携・協働を一層推進します。

２　持続可能な学校教育の推進

（１）社会に開かれた教育課程の推進

○　学校が地域や社会との連携・協働を深め、現実の社会や地域課題、文化・歴史等を学びに取り入れることにより、生徒が地域への理解を深め、社会の一員として必要な資質・能力を身に付けられる教育課程を編成・実施します。

（２）外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保

○　構想の実現に向けて、探究学習や専門的な学びなどに必要とされる地域や外部機関との連携・調整などを担う外部人材の任用などにより、教育環境や学習機会の充実を図り、国や市町村、企業、関係団体などの人材・資金・設備等の外部リソースも効果的に活用するなど、必要な体制を確保します。

（３）教職員の支援体制

○　オンライン教育などデジタル技術の活用による教育手法の変化や、生徒一人一人の学び方、進路希望など、多様化する生徒の教育的ニーズに応えるため、意欲ある人材の確保に努めるとともに、時代に応じて求められる資質能力の向上に関する研修をはじめ、教職員の学びを支える人材育成の充実を図り、教職員が安心して教育現場で活躍できるよう支援します。

○　教職員が教育活動に専念できる環境を整えるため、ＩＣＴの効果的な活用などによる負担軽減を一層推進するほか、相談体制の充実などにより教職員を支える体制を強化します。

○　こうした取組により、教職員の心身の健康保持と指導力の向上を図り、生徒に対して質の高い教育を安定的に提供できる環境を整備します。

（４）生徒の相談・支援体制の構築

○　生徒一人一人の多様な背景や状況に応じた支援を充実させるため、学習面や生活面、進路面などにおけるきめ細かな相談・支援体制の構築や、関係機関・地域との協働を通じて、生徒が安心して学び、将来への希望を持って成長できる環境の整備を図ります。

（５）教育環境の充実

○　生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。

３　入学者選抜の在り方

○　高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。

４　将来構想の推進に向けた適正な進行管理

（１）社会情勢の変化に応じた進行管理

○　人口動態や社会情勢の変化、国の制度改正や新たな教育施策の動向を把握し、本構想に掲げる方向性や取組内容に変更の必要が生じた場合には見直しを行います。

（２）適正な進行管理

○　市町村や企業、関係団体のほか、教職員や保護者、こども※などの多様な関係者の意見を伺いながら、構想の実現に必要な実施計画の策定などを立案・推進する体制を構築し、各施策の進捗状況や課題を把握しながら進行管理を行います。

○　また、構想開始から６年が経過した時点で、高校教育を取り巻く現状と課題や社会情勢の変化を踏まえて、検証を行うとともに、その内容が適切であるか確認します。

※こども…こども基本法第２条における「こども」のことを意味し、心身の発達の過程にある者をいう。

資料編

１　公立高校の設置状況（配置図）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

２　学科別の配置状況（令和７年度）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

３　地区別の公立高校の状況（令和７年度）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２

４　本県高校生の卒業後の進路状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

５　本県高校生の卒業後の就職状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４８

６　本県中学生の卒業後の進路状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９

７　通信制高校への進学者の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９

８　アンケート調査実施結果（概要）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５０

９　意見聴取状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５９

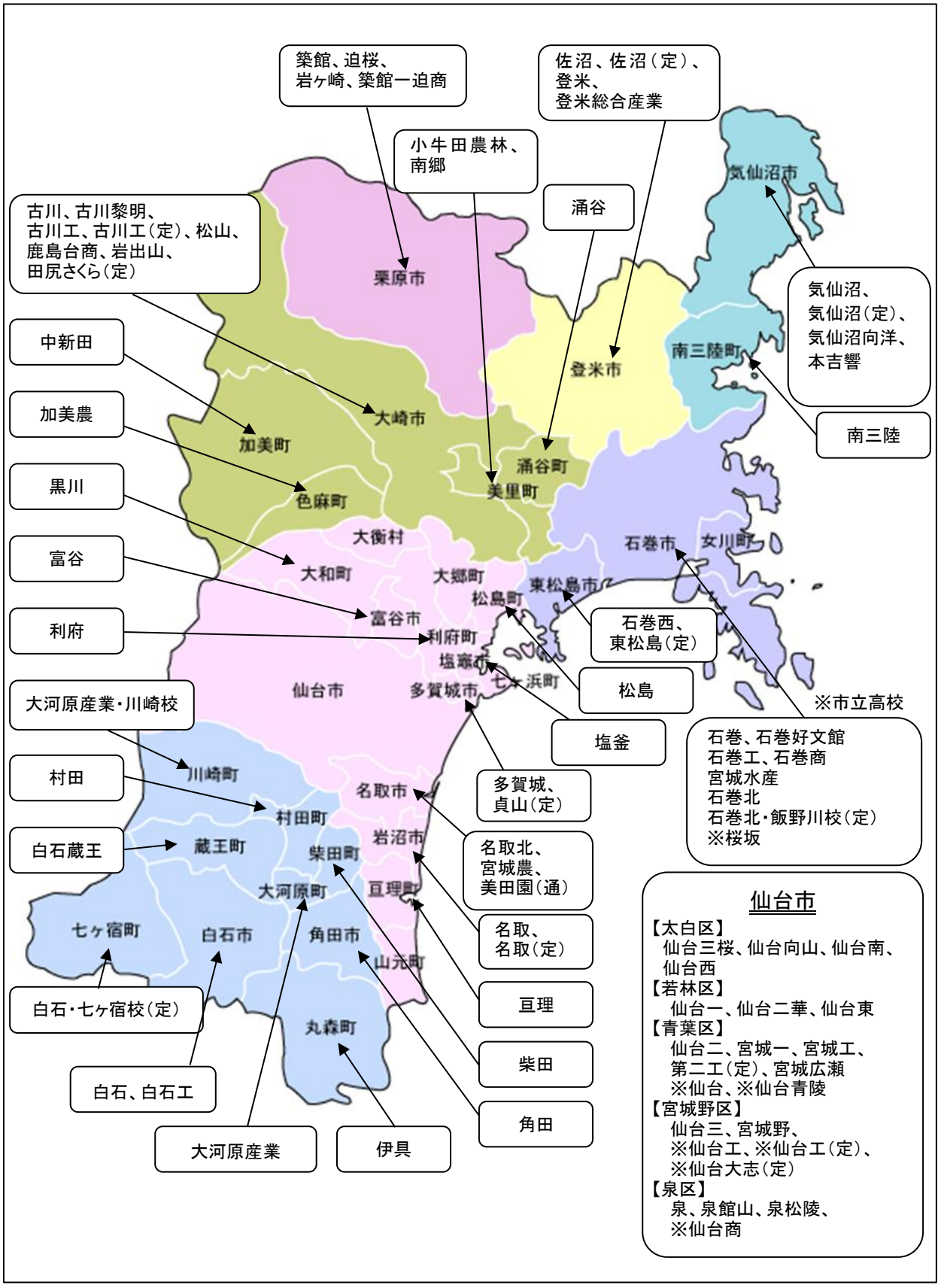
10 県立高等学校将来構想審議会に対する諮問文　・・・・・・・・・・・・・・・・・　６０

11 県立高等学校将来構想審議会委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２

12 みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 策定経過　・・・・・・・・・・・・・　６４

1　公立高校の設置状況（配置図）

令和７年度募集ベース



２　学科別の配置状況（令和７年度）

【データ：教育庁調べ】

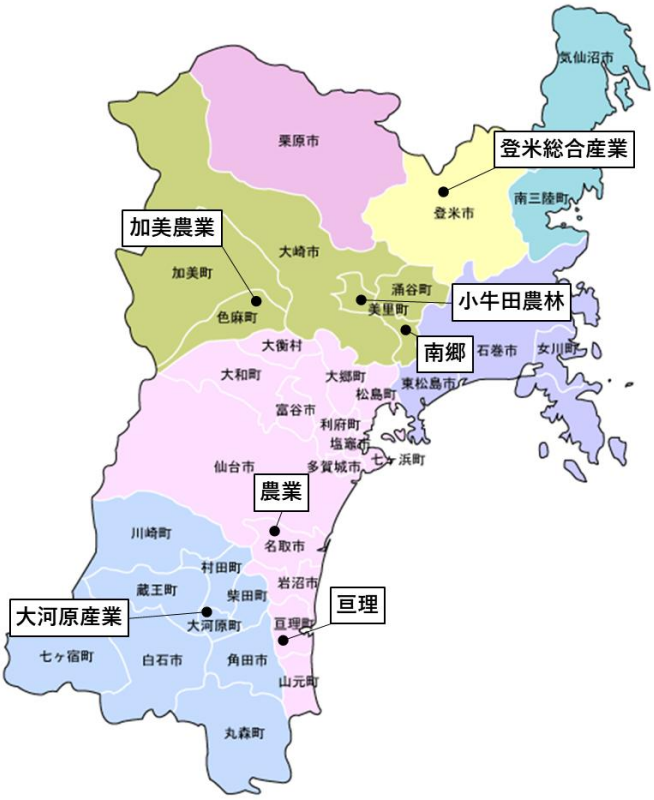
（単位:学級）

	南部地区	中部地区	大崎地区	栗原地区	石巻地区	登米地区	気仙沼地区	計（県全体の学級数に占める割合）	
普通	15	138	22	6	19	8	8	216	(64.1%)
農業	2	7	6			1		16	(4.7%)
工業	6	17	6		5	3	1	38	(11.3%)
商業	4	12	2	1	4	1	1	25	(7.4%)
水産					3		2	5	(1.5%)
体育	1	2						3	(0.9%)
英語		2						2	(0.6%)
家庭		2	1					3	(0.9%)
看護	1							1	(0.3%)
理数		4						4	(1.2%)
美術		1						1	(0.3%)
総合	6		3	4	4		3	20	(5.9%)
福祉						1		1	(0.3%)
災害		1						1	(0.3%)
探究		1						1	(0.3%)
計（各地区における普通科の割合）	35 (42.9%)	187 (73.8%)	40 (55.0%)	11 (54.5%)	35 (54.3%)	14 (57.1%)	15 (53.3%)	337	(100.0%)

＜専門学科の配置状況＞

○農業に関する学科

R7年度	7校16学級	
南部	大河原産業	2（農2商4）
中部	亘理	1（農1普2家1）
	農業	6（農6）
大崎	加美農業	3（農3）
	小牛田農林	2（農2総3）
	南郷	1（農1普1）
登米	登米総合産業	1（農1工3商1福1）



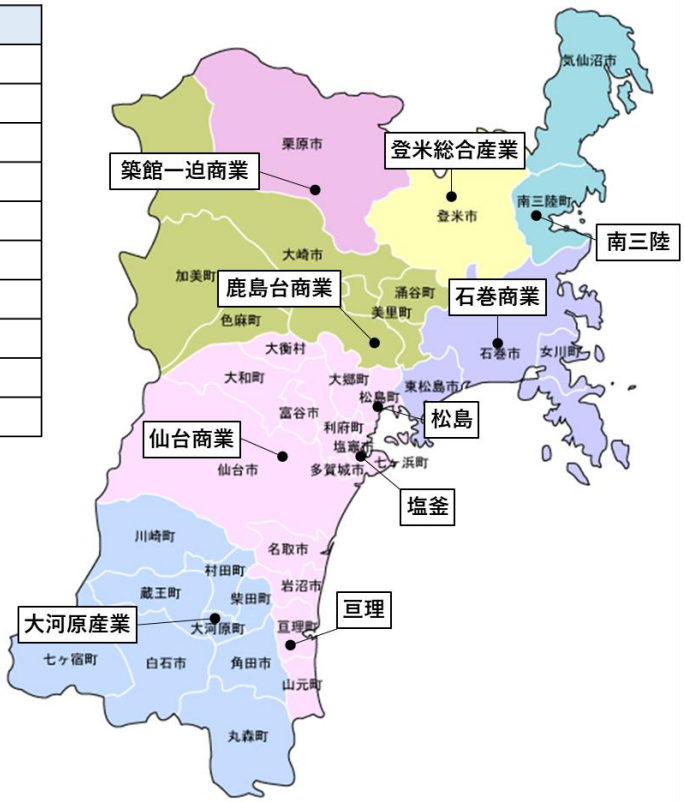
○工業に関する学科

R7年度	8校38学級	
南部	白石工業	6（工6）
中部	工業	8（工8）
	市立仙台工業	6（工6）
	黒川	3（工3普2）
大崎	古川工業	6（工6）
石巻	石巻工業	5（工5）
登米	登米総合産業	3（工3農1商1福1）
気仙沼	気仙沼向洋	1（工1水2）



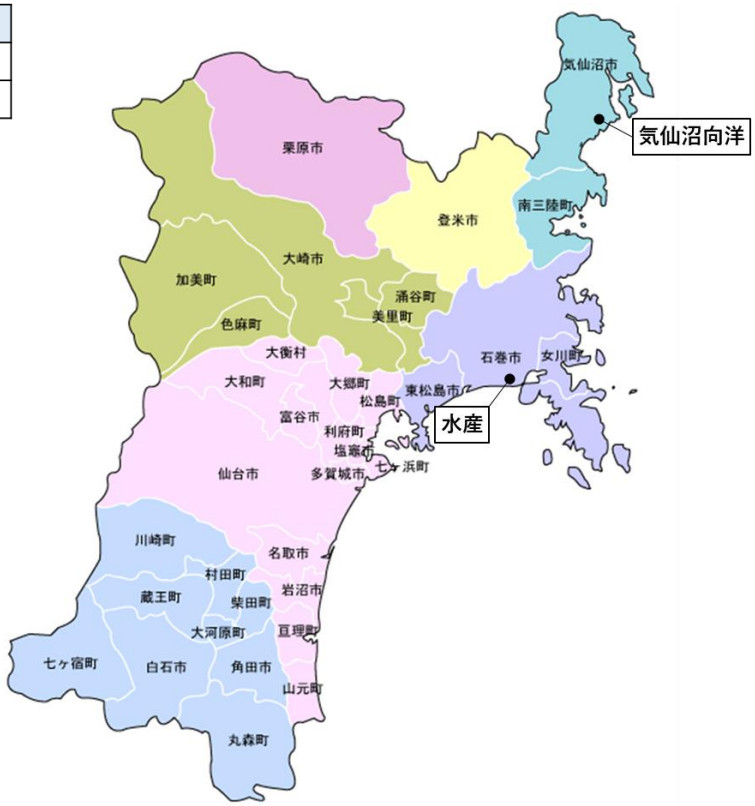
○商業に関する学科

R7年度	10校26学級	
南部	大河原産業	4（商4農2）
中部	市立仙台商業	8（商8）
	塩釜	2（商2普6）
	松島	2（商2普2）
	※亘理	1（商1）R5年度入学生
大崎	鹿島台商業	2（商2）
栗原	築館一迫商業	1（商1）
石巻	石巻商業	4（商4）
登米	登米総合産業	1（商1農1工3福1）
気仙沼	南三陸	1（商1普2）



○水産に関する学科

R7年度	２校５学級	
石巻	水産	３（水３）
気仙沼	気仙沼向洋	２（水２工１）



○家庭に関する学科

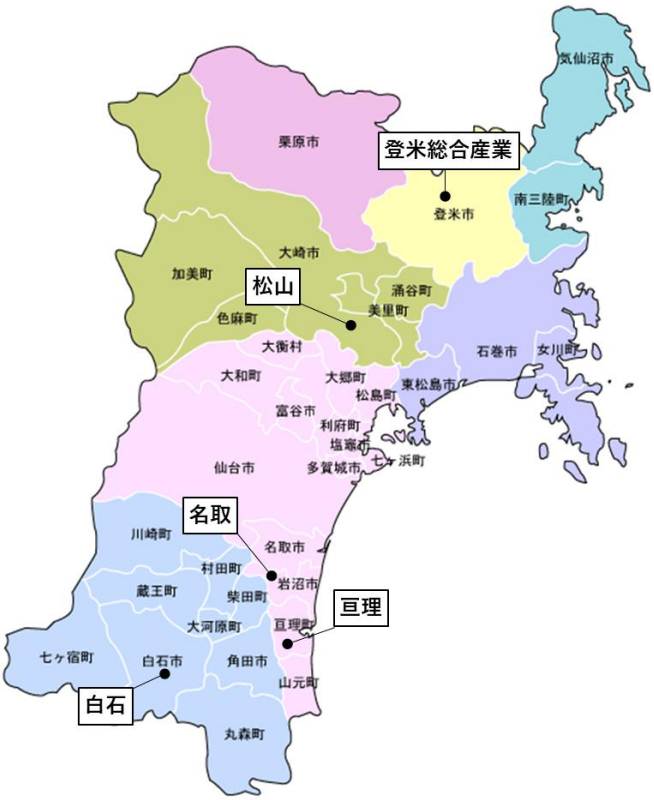
R7年度	３校３学級	
中部	名取	１（家１普６）
	亘理	１（家１普２農１）
大崎	松山	１（家１普１）

○看護に関する学科

R7年度	１校１学級	
南部	白石	１（看１普６）

○福祉に関する学科

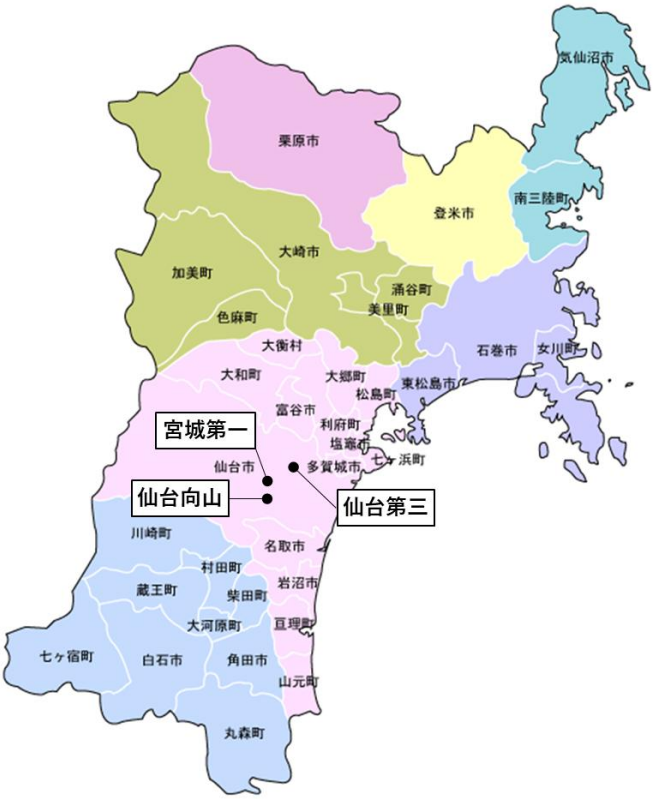
R7年度	１校１学級	
登米	登米総合産業	１（福１農１工３商１）



○理数に関する学科

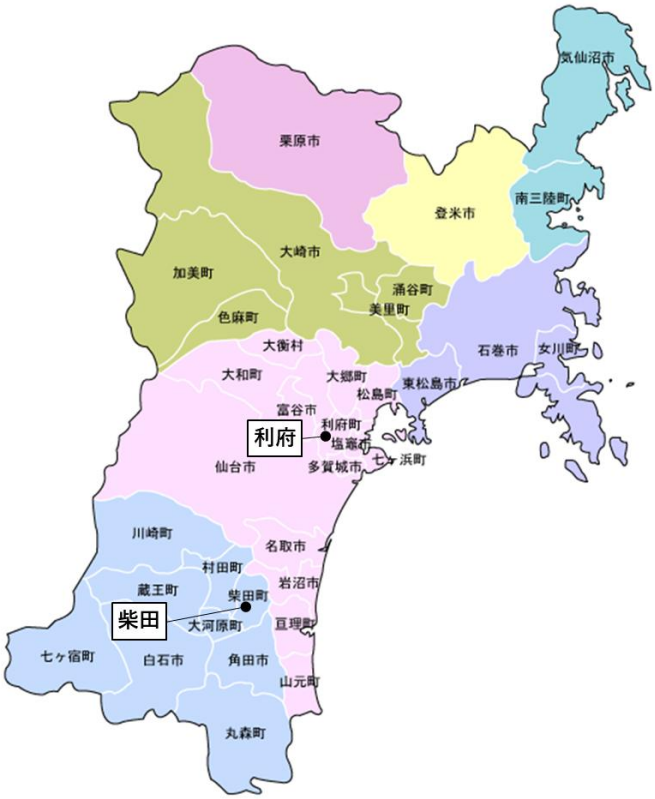
R7年度	３校（４）学級	
中部	仙台向山	１（理１普４）
	仙台第三	２（理２普６）
	宮城第一	１（理１普５国１）

※　宮城第一の理数探究科は、国際探究科とのくくり募集。



○体育に関する学科

R7年度	２校３学級	
南部	柴田	１（体１普３）
中部	利府	２（体２普５）



○美術に関する学科

R7年度	１校１学級
中部	宮城野　　１（美１普５）

○外国語に関する学科

R7年度	２校２学級
中部	仙台東　　１（英１普５）
	泉　　１（英１普５）

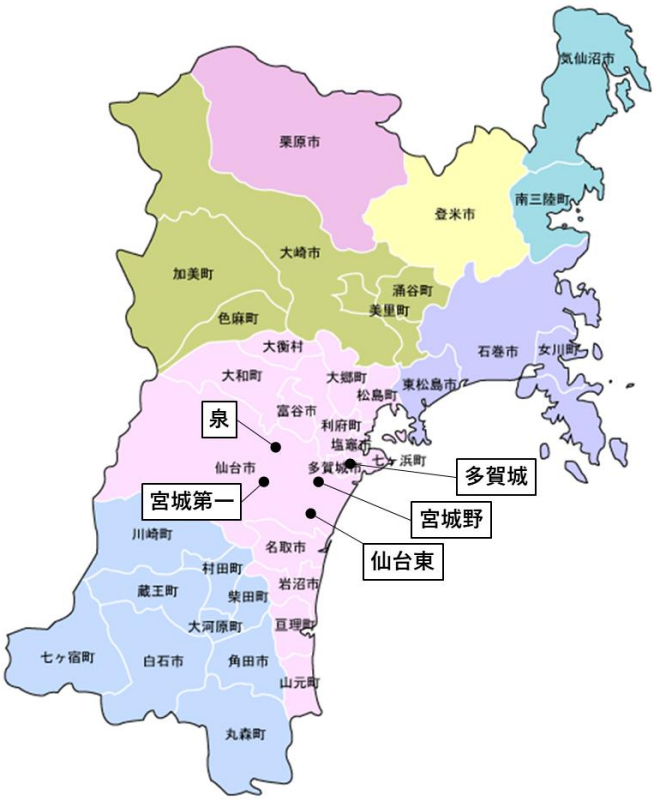
○国際関係に関する学科

R7年度	１校（１）学級
中部	宮城第一　　１（国１普５理１）

※　宮城第一の国際探究科は、理数探究科とのくくり募集。

○防災に関する学科

R7年度	１校１学級
中部	多賀城　　１（災１普６）



＜総合学科の配置状況＞

R7年度	６校20学級	系列	26系列		
南部	村田　3	4	言語・自然科学	機械・自動車	商業実践
			介護福祉		
	伊具　3	4	農学	機械	情報
			福祉		
大崎	小牛田農林　3	4	自然科学	人文社会	情報ビジネス
			健康福祉		
栗原	迫桜　4	5	人文社会	アグリビジネス	エンジニアリング
			情報ビジネス	福祉教養	
石巻	石巻北　4	5	進学	教養	食農
			経情	家庭	
気仙沼	本吉響　3	4	進学教養	人間環境	産業情報
			生活表現		



３　地区別の公立高校の状況（令和７年度）

【データ：教育庁調べ】

＜南部地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	白石市	白石	7	7	7	280	普	240	<単>	1.11	1.08	0.96
							看	40	看護科	1.00	1.23	0.98
全2		白石工業	6	6	6	240	工	80	機械科	0.76	0.81	0.63
								40	電気科	0.80	1.00	0.75
								40	工業化学科	0.43	0.28	0.28
								40	建築科	0.65	0.88	0.78
								40	設備工業科	0.80	0.45	0.40
全3	角田市	角田	5	4	4	160	普	160	<単>	0.80	0.74	0.75
全4	蔵王町	白石・蔵王キャンパス	3	2	1	40	普	40		0.45	0.38	0.38
全5	大河原町	大河原産業	9	9	6	240	農	80	農業科学科	1.10	1.10	1.06
							商	40	企画デザイン科	0.98	1.08	0.95
								120	総合ビジネス科	0.93	0.99	0.94
全6	村田町	村田	3	3	3	120	総	120	<単>	0.52	0.29	0.27
全7	柴田町	柴田	4	4	4	160	普	120		0.74	0.73	0.49
							体	40	体育科	0.95	0.73	0.88
全8	川崎町	大河原産業・川崎校	1	1	1	40	普	40		0.40	0.20	0.35
全9	丸森町	伊具	3	3	3	120	総	120	<単>	0.39	0.52	0.19
全日制計			41	39	35	1,400		1,400		0.78	0.77	0.67
定1	七ヶ宿町	白石・七ヶ宿校	1	1	1	40	普	40	昼間	0.33	0.45	0.15

注）白石・蔵王キャンパス、大河原産業、大河原産業・川崎校の学級数の推移は、再編統合前の状況を含む。
注）<単>は単位制

＜中部地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	仙台市	仙台第一	8	8	8	320	普	320		1.51	1.35	1.41
全2		仙台第二	8	8	8	320	普	320		1.16	1.21	1.19
全3		仙台第三	8	8	8	320	普	240		1.44	1.40	1.36
							理	80	理数科	1.39	1.40	1.20
全4		宮城第一	7	7	7	280	普	200	<単>	1.28	1.38	1.61
							国・理	80	国際探究科・理数探究科<単>	1.41	1.51	1.35
全5		仙台二華	6	6	6	240	普	240	<単>	1.26	1.02	1.12
全6		仙台三桜	7	7	7	280	普	280		1.35	1.52	1.35
全7		泉	7	7	6	240	普	200		1.60	1.44	1.33
							英	40	英語科	1.15	1.33	1.25
全8		仙台向山	5	5	5	200	普	160		1.13	1.56	1.28
							理	40	理数科	1.48	1.00	1.60

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全9	仙台市	仙台南	7	7	7	280	普	280		1.56	1.27	1.38
全10		泉松陵	7	6	6	240	普	240		1.06	1.19	0.77
全11		泉館山	7	7	6	240	普	240		1.10	1.37	1.22
全12		仙台西	7	7	6	240	普	240		1.04	1.04	0.94
全13		宮城広瀬	7	7	6	240	普	240		0.80	0.62	0.41
全14		仙台東	7	7	6	240	普	200		1.35	1.14	1.26
							英	40	英語科	1.05	1.48	0.80
全15		宮城野	7	7	6	240	普	200	<単>	1.29	1.41	1.13
							美	40	美術科<単>	1.30	1.80	1.48
全16		工業	8	8	8	320	工	80	機械科	0.94	1.13	1.16
								40	電子機械科	1.10	1.18	0.85
								80	電気科	1.13	1.06	1.31
								40	情報技術科	1.58	1.68	1.68
								40	化学工業科	1.28	0.98	1.23
								40	インテリア科	1.15	1.73	1.23
全17		仙台工業※	6	6	6	200	工	30	建築科	1.33	1.03	1.27
								60	機械科	0.97	1.35	1.20
								40	電気科	0.96	1.18	1.30
								30	土木科	1.13	1.30	1.17
								40	情報科	−	1.20	1.15
全18		仙台※	8	8	8	280	普	280	<単>	1.28	1.34	1.12
全19		仙台商業※	8	8	8	320	商	320	商業科	1.40	1.21	1.18
全20	塩竈市	塩釜	10	9	8	320	普	240		1.12	1.15	1.28
							商	80	ビジネス科	1.41	1.23	1.54
全21	名取市	名取北	7	7	6	240	普	240		1.03	1.10	1.07
全22		農業	6	6	6	240	農	120	農業科・園芸科	1.20	1.14	1.28
								40	農業機械科	1.08	1.05	1.28
								40	食品化学科	1.43	0.93	1.08
								40	生活科	1.80	0.88	1.38
全23	多賀城市	多賀城	7	7	7	280	普	240		1.15	1.26	1.15
							他	40	災害科学科	1.35	1.50	1.20
全24	岩沼市	名取	7	7	7	280	普	240		1.02	1.12	1.10
							家	40	家政科	1.08	1.20	1.13
全25	富谷市	富谷	7	7	6	240	普	240		1.23	1.44	1.01
全26	亘理町	亘理	5	5	4	160	普	80		0.61	0.51	0.36
							農	40	食品科学科	0.75	0.50	0.38
							家	40	家政科	0.40	0.20	0.25
全27	松島町	松島	5	5	4	160	普	80		1.33	0.98	1.14
							商	80	観光科	0.71	0.54	0.69

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全28	利府町	利府	7	7	7	280	普	200	<単>	1.08	1.11	0.88
							体	80	スポーツ科学科<単>	0.86	0.81	0.86
全29	大和町	黒川	6	6	5	200	普	80		0.70	0.84	0.70
							工	40	機械科	0.83	0.68	0.70
								40	電子工学科	0.55	0.50	0.35
								40	環境技術科	0.43	0.25	0.33
全日制計			202	200	188	7,440		7,440		1.21	1.20	1.13
定1	仙台市	第二工業	2	2	2	80	工	40	電子機械科・夜	0.43	0.15	0.05
								40	電気科・夜	0.18	0.20	0.15
定2		仙台大志※	3	4	4	120	普	90	Ⅰ部(午前午後)	0.70	0.70	0.89
								30	Ⅱ部(午後夜間)	0.40	0.30	0.33
定3		仙台工業※	2	2	2	80	工	40	建築土木科・夜	0.18	0.20	0.05
								40	機械システム科・夜	0.25	0.13	0.15
定4	名取市	名取	1	1	1	40	普	40	夜	0.45	0.55	0.65
定5	多賀城市	貞山	4	4	4	160	普	120	昼<単>	0.59	0.65	0.55
								40	夜<単>	0.15	0.28	0.18
通	名取市	美田園	−	−	−	500	普	500		−	−	−

注)※は市立高校、<単>は単位制

＜大崎地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	大崎市	古川	6	6	6	240	普	240		1.02	1.11	0.89
全2		古川黎明	6	6	6	240	普	240		1.04	0.90	0.91
全3		岩出山	3	3	2	80	普	80		0.55	0.50	0.31
全4		松山	2	2	2	80	普	40		0.30	0.20	0.18
							家	40	家政科	0.53	0.43	0.23
全5		古川工業	6	6	6	240	工	40	土木情報科	1.15	1.68	0.90
								40	建築科	0.88	1.13	0.68
								40	電気電子科	0.88	1.13	0.80
								80	機械科	1.06	1.26	0.98
								40	化学技術科	1.03	1.40	0.95
全6		鹿島台商業	3	3	2	80	商	80	商業科	0.24	0.15	0.14
全7	加美町	中新田	3	3	3	120	普	120		0.60	0.51	0.67
全8	色麻町	加美農業	3	3	3	120	農	40	農業科	0.40	0.40	0.50
								40	農業機械科	0.38	0.58	0.43
								40	生活技術科	0.33	0.45	0.38
全9	涌谷町	涌谷	4	4	3	120	普	120		0.28	0.38	0.23

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全10	美里町	南郷	2	2	2	80	普	40		0.10	0.15	0.05
							農	40	産業技術科	0.13	0.08	0.05
全11		小牛田農林	5	5	5	200	農	40	農業技術科・農業科学コース	0.83	0.93	0.95
								40	農業技術科・農業土木コース	1.15	0.95	0.88
							総	120	<単>	1.23	1.07	0.98
全日制計			43	43	40	1,600		1,600		0.77	0.78	0.66
定1	大崎市	田尻さくら	3	3	3	120	普	120	Ⅰ部(午前)<単>	0.48	0.61	0.71
									Ⅱ部(午後夕間)<単>	0.18	0.38	0.43
定2		古川工業	2	2	2	80	工	80	機械科・夜間	0.10	0.03	0.08
									電気科・夜間	0.10	0.05	0.10

注)<単>は単位制

＜栗原地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	栗原市	築館	5	4	4	160	普	160		1.03	0.87	0.99
全2		築館・一迫商業キャンパス	2	2	1	40	商	40	情報ビジネス科 (流通経済科/情報処理科)	0.25/0.65	0.75	0.50
全3		迫桜	5	5	4	160	総	160	<単>	0.72	0.66	0.50
全4		岩ヶ崎	3	3	2	80	普	80	文系教養コース	0.28	0.38	0.25
									理系教養コース	0.13	0.05	
全日制計			15	14	11	440		440		0.69	0.66	0.63

注)築館・一迫商業キャンパス、岩ヶ崎の学級数の推移は、再編統合前の状況を含む。
注)<単>は単位制

＜登米地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	登米市	佐沼	6	6	6	240	普	240		0.95	0.97	1.00
全2		登米	4	3	2	80	普	80		0.65	0.61	0.60
全3		登米総合産業	7	6	6	240	農	40	農業科	0.73	0.58	0.70
							工	40	機械科	0.88	0.75	0.93
								40	電気科	0.45	0.50	0.40
								40	情報技術科	0.65	0.80	0.75
							商	40	商業科	0.83	0.70	0.63
							福	40	福祉科	0.60	0.40	0.43
全日制計			17	15	14	560		560		0.80	0.77	0.79
定1	登米市	佐沼	1	1	1	40	普	40	夜間	0.25	0.18	0.35

注)登米総合産業の学級数の推移は、再編統合前の状況を含む。

＜石巻地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	石巻市	石巻	6	6	6	240	普	240		0.76	0.76	0.89
全2		石巻好文館	5	5	5	200	普	200	<単>	0.99	0.73	0.84
全3		石巻北	5	5	4	160	総	160	<単>	0.64	0.55	0.46
全4		水産	4	4	3	120	水	40	船舶運航科	0.56	0.55	0.85
								40	生物環境科		0.73	0.73
								40	食品科		0.83	1.03
全5		石巻工業	6	5	5	200	工	40	機械科	0.93	1.18	1.03
								40	電気情報科	0.65	0.88	0.98
								40	化学技術科	0.88	1.13	0.63
								40	土木システム科	0.90	1.15	1.08
								40	建築科	0.83	0.90	0.63
全6		石巻商業	5	5	4	160	商	160	総合ビジネス科	0.66	0.56	0.47
全7		桜坂※	8	5	4	160	普	160	学励探求コース	0.71	0.38	0.54
									キャリア探求コース	0.71	0.64	0.66
全8	東松島市	石巻西	5	4	4	160	普	160		1.01	1.09	1.06
－	女川町	女川	2	－	－	－	－	－		－	－	－
全日制計			46	39	35	1,400		1,400		0.78	0.75	0.77
定1	石巻市	石巻北・飯野川校	1	1	1	40	普	40	昼間<単>	0.43	0.28	0.20
定2	東松島市	東松島	－	3	3	120	普	120	Ⅰ部（午前）<単>	0.93	1.08	0.60
									Ⅱ部（午後）<単>	0.75	0.68	0.50
									Ⅲ部（夜間）<単>	0.10	0.05	0.18

注）※は市立高校、<単>は単位制
注）桜坂※、東松島（定時）の学級数の推移は、再編統合前の状況を含む。

＜気仙沼地区＞

	所在地	高校名	学級数の推移			R7定員合計	区分	学科定員	学科等	第一次募集出願倍率		
			H23	H31	R7					R6	R7	R8
全1	気仙沼市	気仙沼	7	6	6	240	普	240		0.88	0.79	0.84
－		気仙沼西	3	－	－	－	－	－		－	－	－
全2		本吉響	3	3	3	120	総	120	<単>	0.27	0.27	0.28
全3		気仙沼向洋	3	3	3	120	水	40	情報海洋科	0.70	0.58	0.60
								40	産業経済科	1.08	0.85	0.95
							工	40	機械技術科	1.10	0.68	1.00
全4	南三陸町	南三陸	4	3	3	120	普	80		0.29	0.43	0.28
							商	40	情報ビジネス科	0.38	0.20	0.28
全日制計			20	15	15	600		600		0.66	0.58	0.62
定1	気仙沼市	気仙沼	1	1	1	40	普	40	夜間	0.23	0.30	0.13

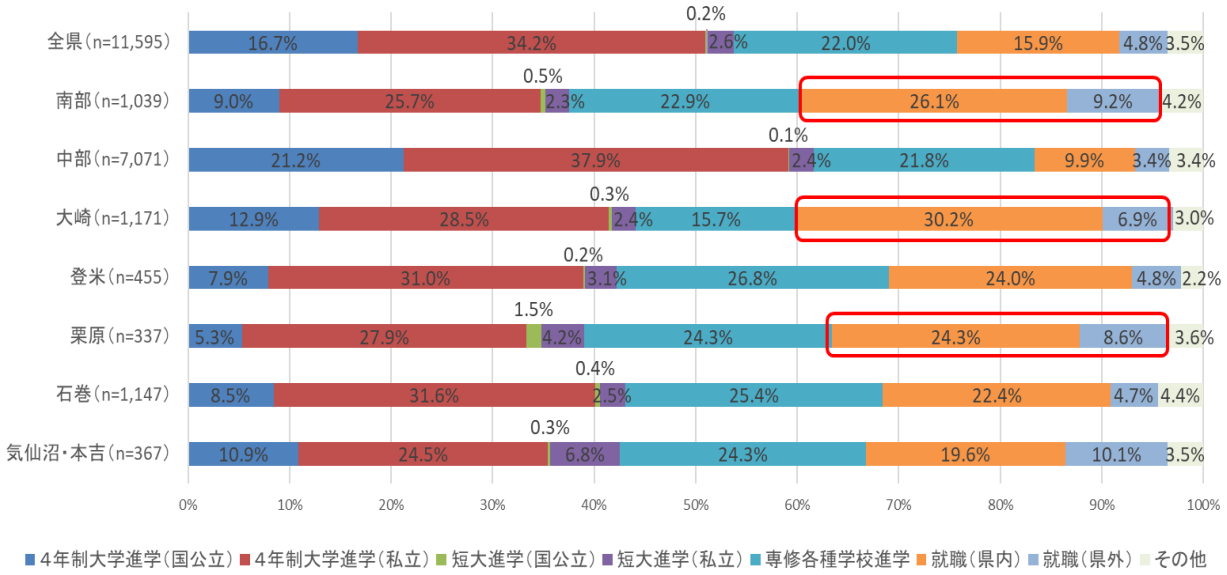
注）気仙沼の学級数の推移は、再編統合前の状況を含む。
注）<単>は単位制

４　本県高校生の卒業後の進路状況

【データ：教育庁調べ】

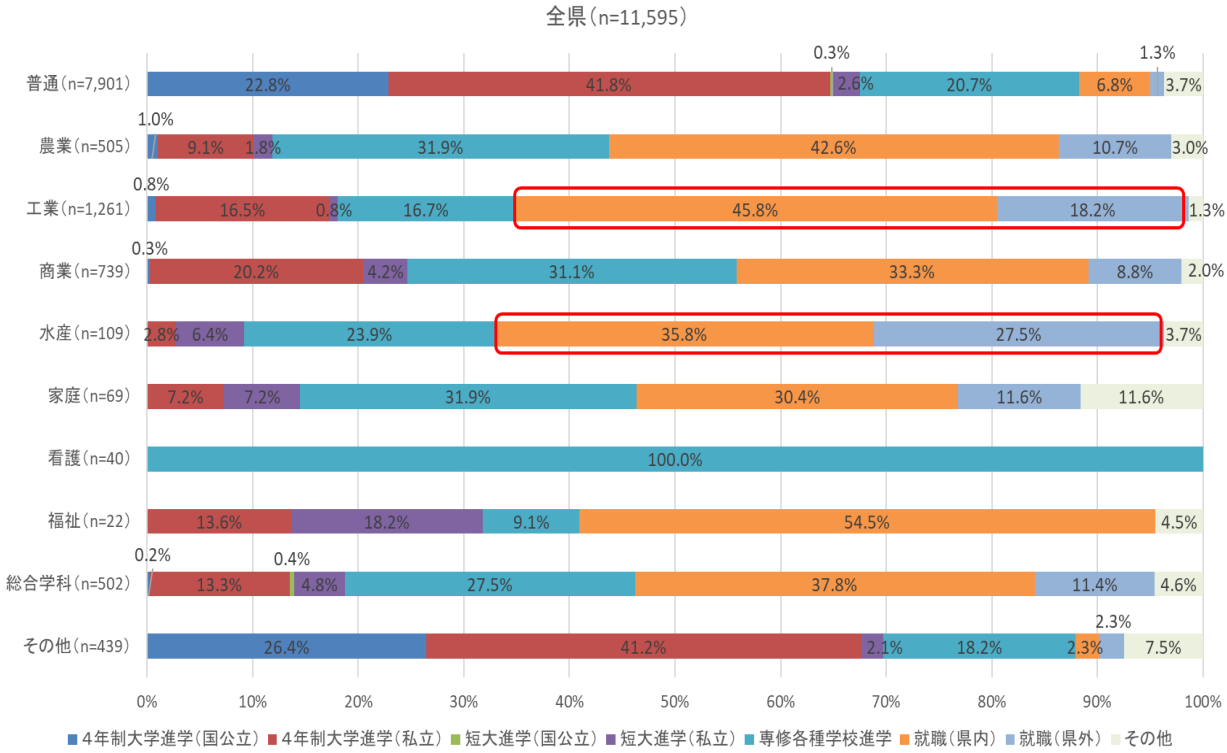
（１）R7.３卒業生、地区別、公立高校（全日制）

・４年制大学進学の割合は、中部地区が他地区よりも高い。
・就職の割合は、南部、大崎、栗原地区が３割強を占めており、他地区よりも高い。



（２）R7.3 卒業生、学科別、公立高校（全日制）

・専門学科では、普通科に比べて就職の割合が高く、特に工業科、水産科においてその傾向が顕著である。

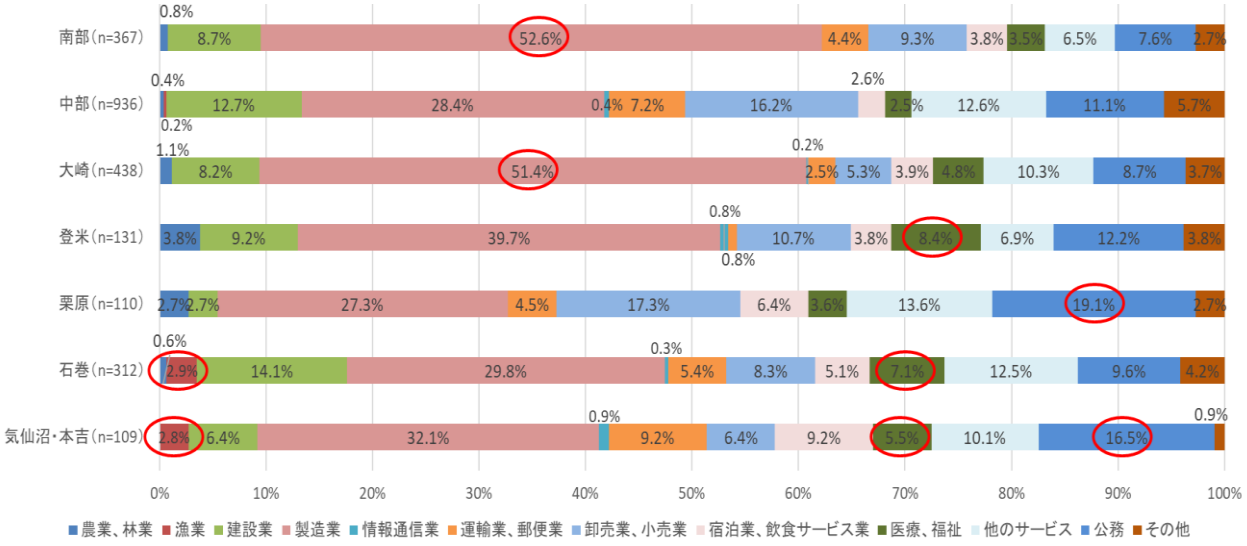


5　本県高校生の卒業後の就職状況

【データ：教育庁調べ】

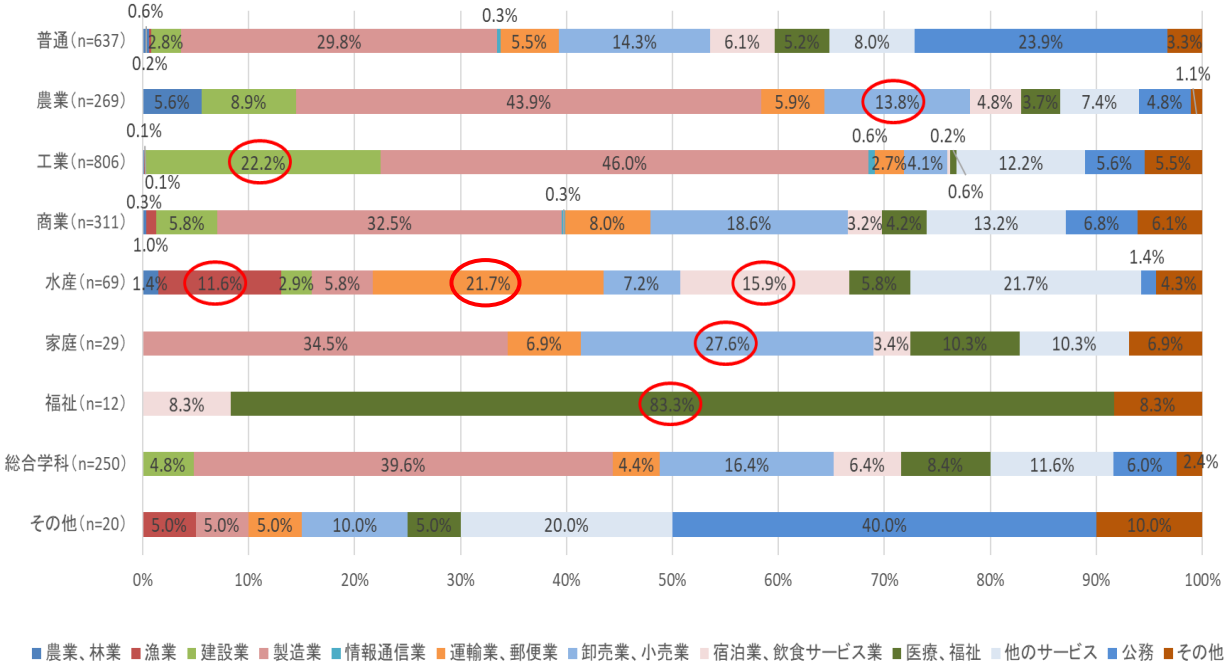
（１）R7.3 卒業生、地区別、公立高校（全日制）

・各地区とも製造業への就職割合が最も高く、特に南部、大崎地区においては半数近くを占める。
・石巻、気仙沼地区では、漁業の就職割合が他地区に比べて一定程度ある。
・登米、石巻、気仙沼・本吉地区では、医療、福祉への就職割合が他地区より高い。
・栗原、気仙沼・本吉地区では、公務への就職割合が他地区よりも高い。



（２）R7.3 卒業生、学科別、公立高校（全日制）

・専門学科では、製造業への就職割合が高い傾向にある。
・農業科は卸売業、小売業、工業科は建設業、水産科は運輸業、郵便業、福祉科は医療、福祉への就職割合が高い。
・水産科は、漁業のほか、宿泊業・飲食サービス業の割合が他の学科よりも高い。



6　本県中学生の卒業後の進路状況

【データ：教育庁調べ】

・全日制課程進学者数　H31.3　18,990 人　→　R7.3　17,026 人（▲1,964 人、▲3.2%）
　うち　県内公立　H31.3　13,560 人　→　R7.3　11,576 人（▲1,984 人、▲5.2%）
　うち　県内私立　H31.3　5,125 人　→　R7.3　5,092 人（　▲33 人、＋1.7%）
・通信制課程進学者数　H31.3　562 人　→　R7.3　1,036 人（　＋474 人、＋2.7%）

（単位：人）

卒業年月	中卒者数	全日制 計		全日制 県内公立		全日制 県内私立		全日制 県外		定時制		通信制		高等専門学校		特別支援学校		その他	
H31.3	20,765	18,990	91.5%	13,560	65.3%	5,125	24.7%	305	1.5%	449	2.2%	562	2.7%	278	1.3%	303	1.5%	183	0.9%
R2.3	19,930	18,222	91.4%	12,839	64.4%	5,126	25.7%	257	1.3%	358	1.8%	612	3.1%	272	1.4%	294	1.5%	172	0.9%
R3.3	19,235	17,519	91.1%	12,306	64.0%	4,941	25.7%	272	1.4%	338	1.8%	667	3.5%	302	1.6%	257	1.3%	152	0.8%
R4.3	19,761	17,951	90.8%	12,188	61.7%	5,464	27.7%	299	1.5%	301	1.5%	771	3.9%	286	1.4%	285	1.4%	167	0.8%
R5.3	19,973	17,989	90.1%	12,200	61.1%	5,491	27.5%	298	1.5%	345	1.7%	921	4.6%	276	1.4%	291	1.5%	151	0.8%
R6.3	19,689	17,528	89.0%	11,987	60.9%	5,168	26.2%	373	1.9%	376	1.9%	1,027	5.2%	268	1.4%	289	1.5%	201	1.0%
R7.3	19,271	17,026	88.3%	11,576	60.1%	5,092	26.4%	358	1.9%	386	2.0%	1,036	5.4%	290	1.5%	316	1.7%	217	1.1%
増減（R7−H31）	▲ 1,494	▲ 1,964	▲3.2%	▲ 1,984	▲5.2%	▲ 33	1.7%	53	0.4%	▲ 63	▲0.2%	474	2.7%	12	0.2%	13	0.2%	34	0.2%

7　通信制高校への進学者の状況

【データ：教育庁調べ】

・県内公立　H31.3　115 人　→　R7.3　170 人　（＋55 人、▲4.1%）
・県内私立　H31.3　76人　→　R7.3　221人　（＋145人、＋7.8%）
・県外国公立　H31.3　3 人　→　R7.3　9 人　（　＋6 人、＋0.3%）
・県外私立（広域通信制）
　H31.3　368 人　→　R7.3　636 人　（＋268 人、▲4.2%）

（単位:人）

卒業年月	通信制進学者数	県内公立		県内私立		県外国公立		県外私立	
H31.3	562	115	20.5%	76	13.5%	3	0.5%	368	65.5%
R2.3	612	119	19.4%	74	12.1%	13	2.1%	406	66.3%
R3.3	667	108	16.2%	101	15.1%	9	1.3%	449	67.3%
R4.3	771	122	15.8%	166	21.5%	10	1.3%	473	61.3%
R5.3	921	157	17.0%	167	18.1%	7	0.8%	590	64.1%
R6.3	1,027	151	14.7%	166	16.2%	9	0.9%	701	68.3%
R7.3	1,036	170	16.4%	221	21.3%	9	0.8%	636	61.3%
増減（R7−H31）	474	55	▲4.1%	145	7.8%	6	0.3%	268	▲4.2%

８　アンケート調査実施結果（概要）

１　調査の目的

みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 策定のため、県内で学ぶ中学生、高校生とその保護者を対象にアンケート調査を実施したもの。

２　調査の対象と回答数

○　対象

宮城県内の国立、県立、市町村立、私立中学校、県立、市立高校（全日制）の生徒（中学１年生～高校３年生）とその保護者

○　回答数

１９，５６４件

３　調査の実施期間

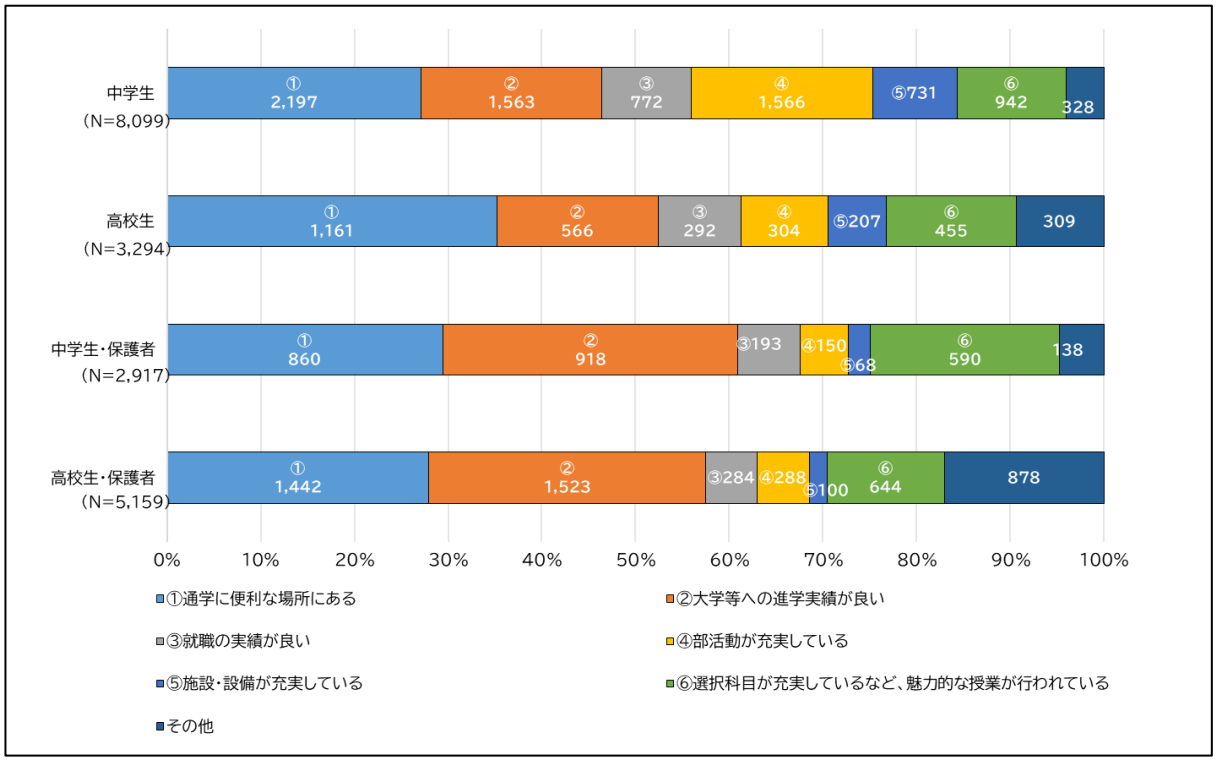
令和７年９月１日～９月１９日

４　調査項目

区分 / 項目	生徒		保護者	
	中学生	高校生	中学校	高校
学年	○	○	○	○
通学している高校の学科		○		○
自宅(実家)の所在地区	○	○	○	○
通学している高校の所在地区		○		○
中学校卒業後の進路希望	○		○	
高校卒業後の進路希望		○		○
進学希望の高校の所在地区	○		○	
進学希望の高校の学科	○		○	
将来のイメージ	○	○	○	○
高校選択時に最も重視する(した)こと	○	○	○	○
高校入学後に最も重視したほうが良かったこと		○		○
高校が片道1時間以上程度かかる場合でも通いたいか	○		○	
通学時間が1時間以内の場所に第一志望の高校がない場合どうするか	○		○	
進学したい(している)高校の規模(学級数)	○	○	○	○
上記学級数への感想		○		○
上記回答の理由		記述		記述
オンライン授業経験の有無	○	○		
オンライン授業の感想や課題	○	○	○	○
高校の授業で興味・関心があること	○	○	○	○
私立高校の授業料が無償化された場合の進路	○		○	
私立高校が良いと思った理由	○		○	
自分のペースで学ぶことができる学校への進学希望	○	○	○	○
上記の理由	○	○	○	○
行きたいと思う高校		○		
良い高校を創るためのアイデア	記述	記述	記述	記述

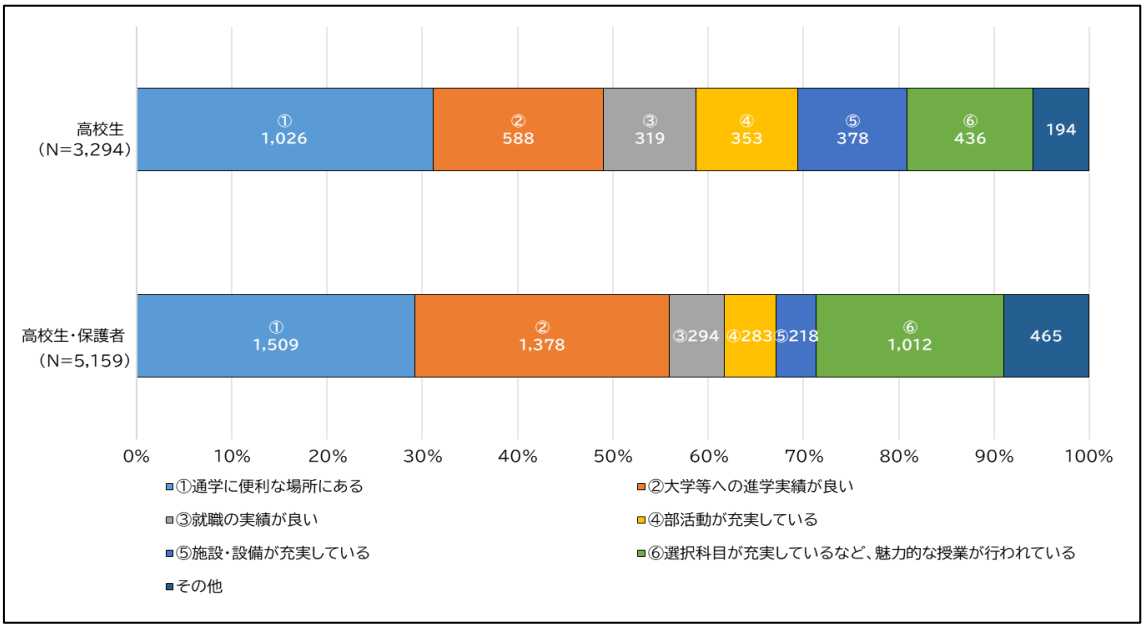
５　調査結果の概要（抜粋）

（１）高校選択時に最も重視する（した）ことは何か。



→　中学生、高校生では、「①通学に便利な場所にある」の回答が最も多く、特に高校生でその傾向が顕著である。中学生では、「②大学等への進学実績が良い」「④部活動が充実している」の回答も多い。保護者は「①通学に便利な場所にある」「②大学等への進学実績が良い」の回答が多くなっている。

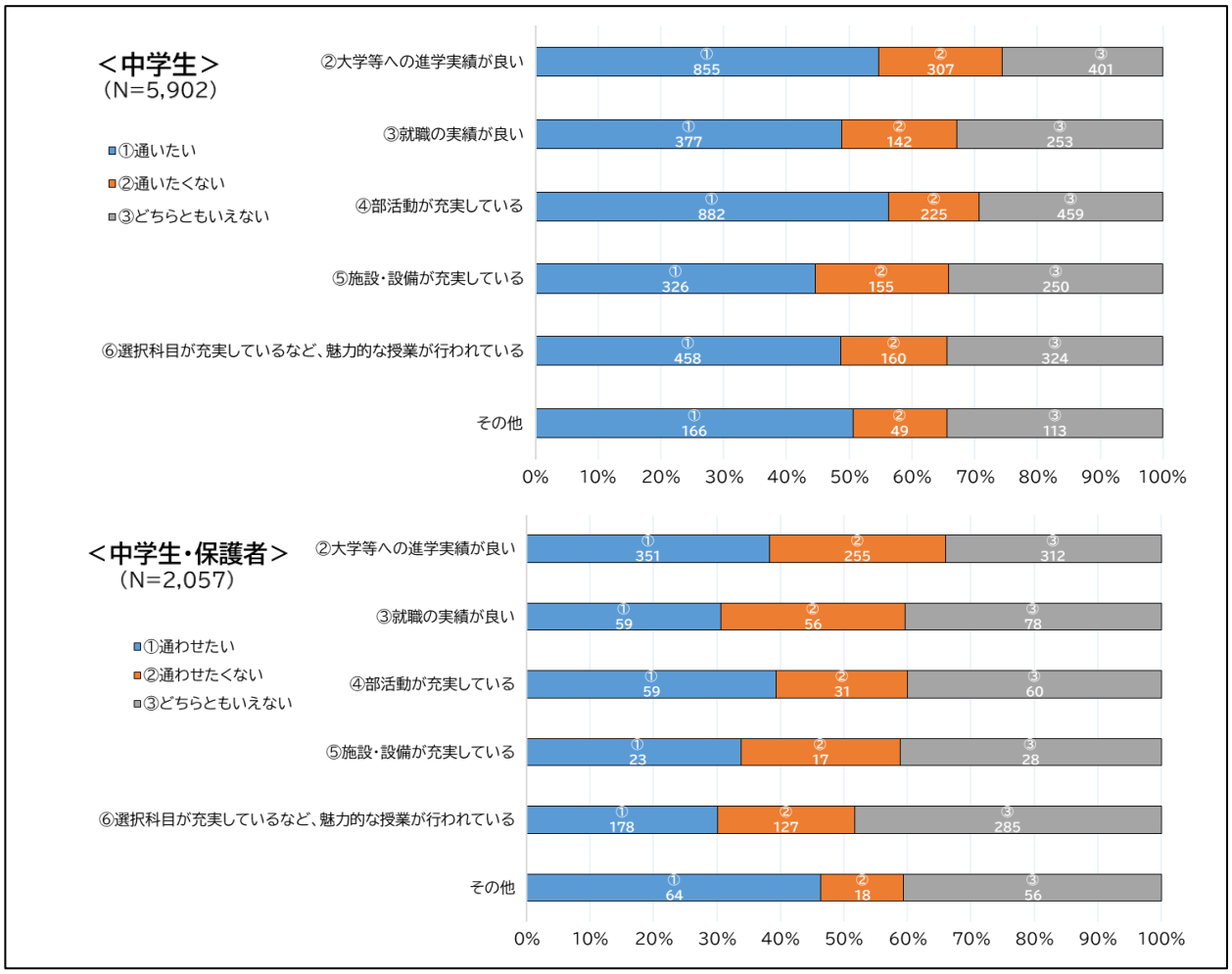
（２）高校入学後に、最も重視した方がよかったと思うことは何か。



→　高校生では、「⑤施設・整備が充実している」の回答が高校選択時より増加し、保護者では、「⑥選択科目が充実しているなど、魅力的な授業が行われている」の回答が高校選択時より増加している。

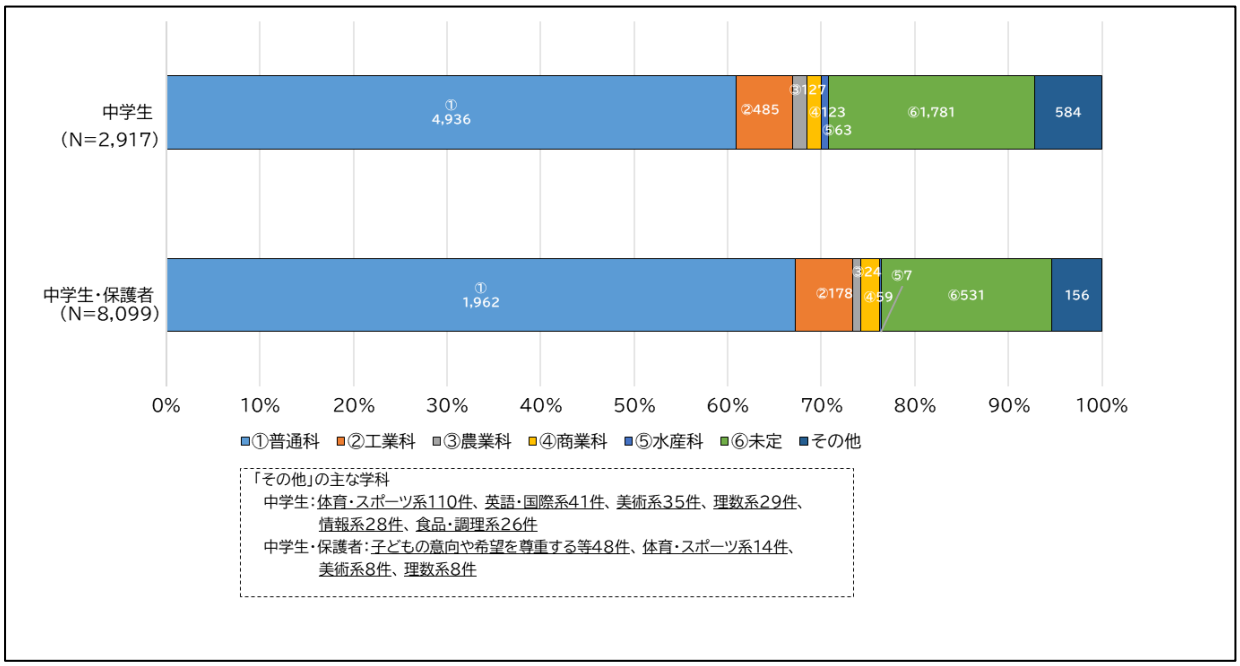
（３）（１）の高校選択時に最も重視することで、②～⑥、その他を選択した人のうち、高校が自宅から片道１時間以上程度かかる場合でも通いたいと思うか。

※通学手段（公共交通機関、送迎等）を問わない。



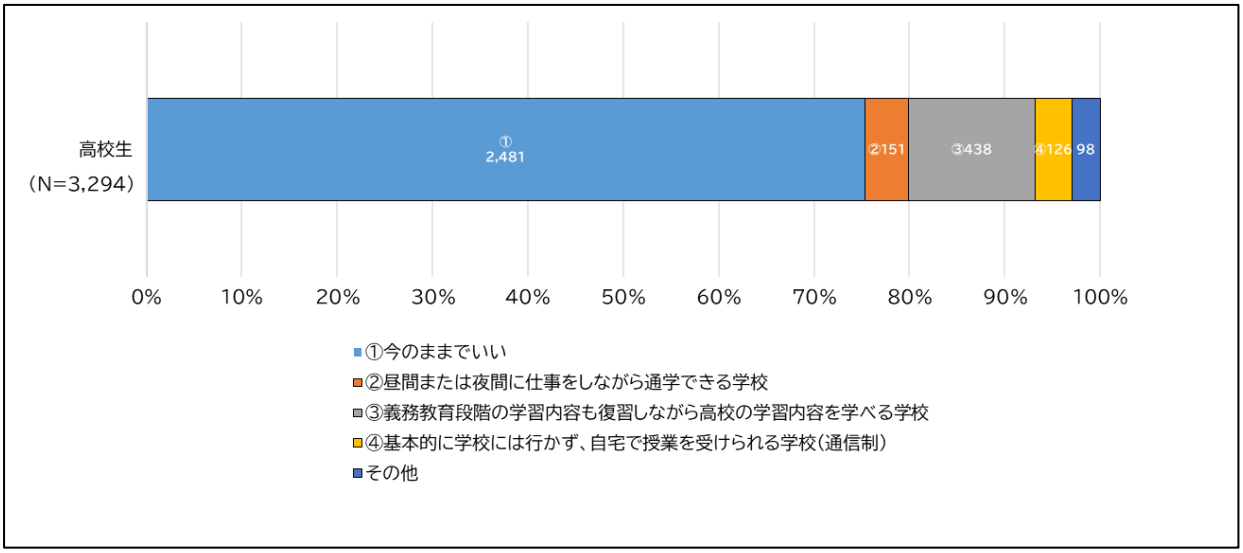
→　中学生では片道 1 時間以上かかっても「①通いたい」と回答する割合が大きいが、保護者では、「①通わせたい」と回答する割合が中学生より小さく、「②通わせたくない」「③どちらともいえない」と回答する割合が大きい傾向にある。

（４）志望する学科は何か。



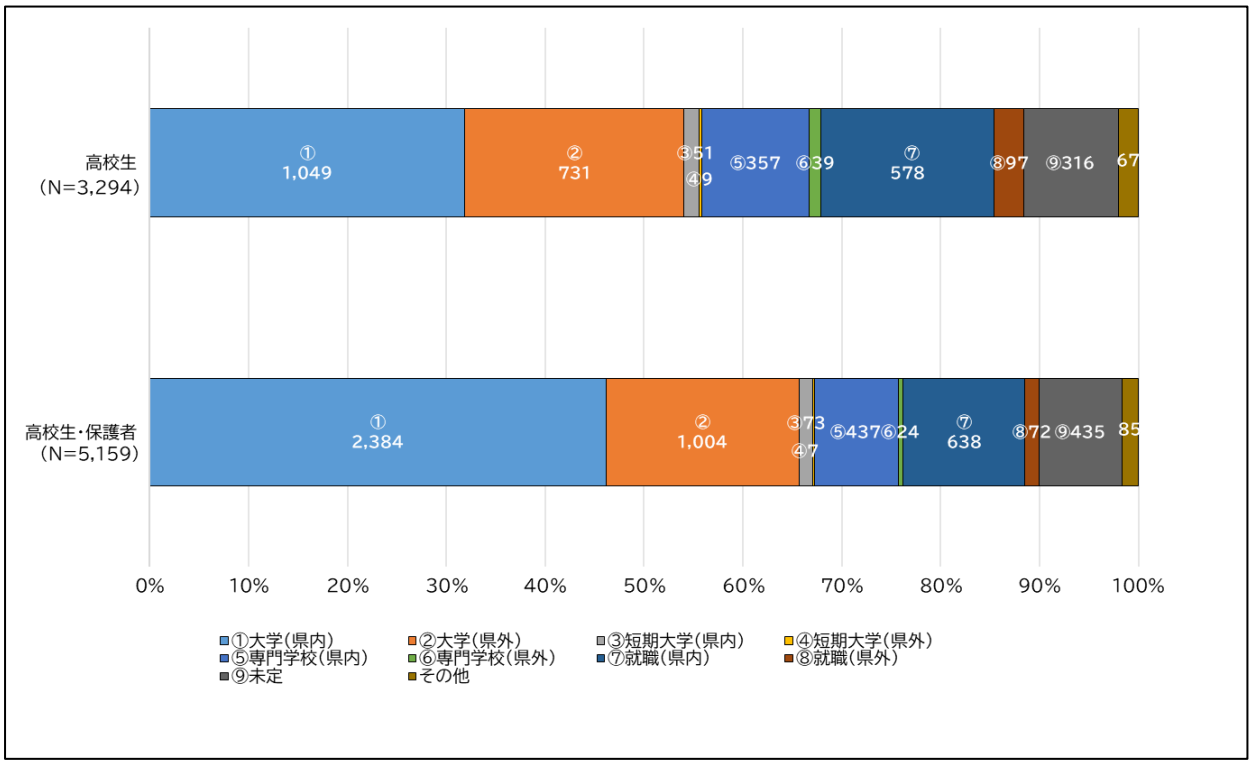
→　中学生も保護者も「①普通科」を希望する回答が最も多いが、保護者の方が、「①普通科」を希望する割合が大きい。また、「②工業科」を希望する回答が次に多くなっている。

（５）行きたいと思う高校はどのような学校か。



→　高校生では、「①今のままでいい」の回答が最も多い。「③義務教育段階の学習内容も復習しながら高校の学習内容を学べる学校」や、「②昼間または夜間に仕事をしながら通学できる仕事」の回答も多くなっている。

（６）高校卒業後の進路希望はどのようなものか。



→　高校生も保護者も「①大学（県内）」の回答が最も多いが、高校生では「①大学（県内）」を希望する回答が「②大学（県外）」に比べてやや多くなっているのに対して、保護者では、「①大学（県内）」を希望する回答が「②大学（県外）」に比べて非常に多くなっている。

（７）将来のイメージはどのようなものか。　※複数選択可

	中学生	高校生	中学生・保護者	高校生・保護者
①ある特定の分野に深い知識や技術を持った人材（例：研究職、エンジニア）	2,239	1,474	1,494	2,608
②幅広い知識やスキルを身に付けた人材（例：会社員）	3,472	1,371	1,438	2,432
③自分の趣味・特技を生かした仕事（例：歌手、YouTuber）	3,458	813	824	872
④地元の企業等で働く	817	545	373	773
⑤他県や海外で活躍	1,111	352	269	360
その他	569	118	116	299
合計	8,099	3,294	2,917	5,159

「その他」の主な意見

中学生：未定175件、スポーツ関係78件

高校生：未定　26件

中学生・保護者：子どもの意向や希望を尊重する等　77件

高校生・保護者：子どもの意向や希望を尊重する等130件

→　中学生では「②幅広い知識やスキルを身に付けた人材」や、「③自分の趣味・特技を生かした仕事」の回答が多いが、高校生、中学生・保護者、高校生・保護者では、「③自分の趣味・特技を生かした仕事」の回答が少ない傾向にあり、「①ある特定の分野に深い知識や技術を持った人材」や、「②幅広い知識やスキルを身につけた人材」の回答が多い傾向にある。

（８）高校のどのような授業に興味・関心があるか。　※複数選択可

	中学生	高校生	中学生・保護者	高校生・保護者
①自分で決めたテーマなどについて学びを深めるような探究の授業	4,147	1,381	1,729	2,604
②大学等への進学に対応した授業	2,728	1,290	1,527	2,709
③就職に役立つ専門的な知識が習得できる授業	4,047	1,325	1,257	1,631
④最先端の科学技術に触れることができる授業	1,600	571	750	1,139
⑤理科や地理歴史、公民などの教科の枠にとらわれない教科を横断するような授業	1,264	540	588	844
⑥他の学校の生徒と交流することができる授業	1,402	420	511	746
その他	181	78	66	141
合計	8,099	3,294	2,917	5,159

→　中学生では「①自分で決めたテーマなどについて学びを深めるような探究の授業」や、「③就職に役立つ専門的な知識が習得出来る授業」の回答が多い。高校生では、「①自分で決めたテーマなどについて学びを深めるような探究の授業」や、「②大学等への進学に対応した授業」、「③就職に役立つ専門的な知識が習得できる授業」の回答が多い。中学生・保護者、高校生・保護者では、「①自分で決めたテーマなどについて学びを深めるような探究の授業」や、「②大学等への進学に対応した授業」の回答が多くなっている。

（９）　オンライン授業に対する感想（評価・課題）　※複数選択可

＜中学生・高校生＞

	中学生	高校生
オンライン授業を受けたことがある	1,516	388
オンライン授業を受けたことがない	6,583	2,906
合計	8,099	3,294

＜感想（受けたことがある生徒のみ回答）＞

	中学生	高校生
①他校や海外の生徒と気軽に交流できる	694	193
②普段は受けることができない授業を受けられる	845	188
③通学が難しい場合も授業を受けられる	371	69
④生徒同士や先生とのコミュニケーションがとりづらい	352	78
⑤対面の授業より集中できない	266	74
⑥授業後、分からない部分を先生に教えてもらいにくい	190	33
その他	23	13
合計	1,516	388

＜中学生・保護者、高校生・保護者＞

【評価】

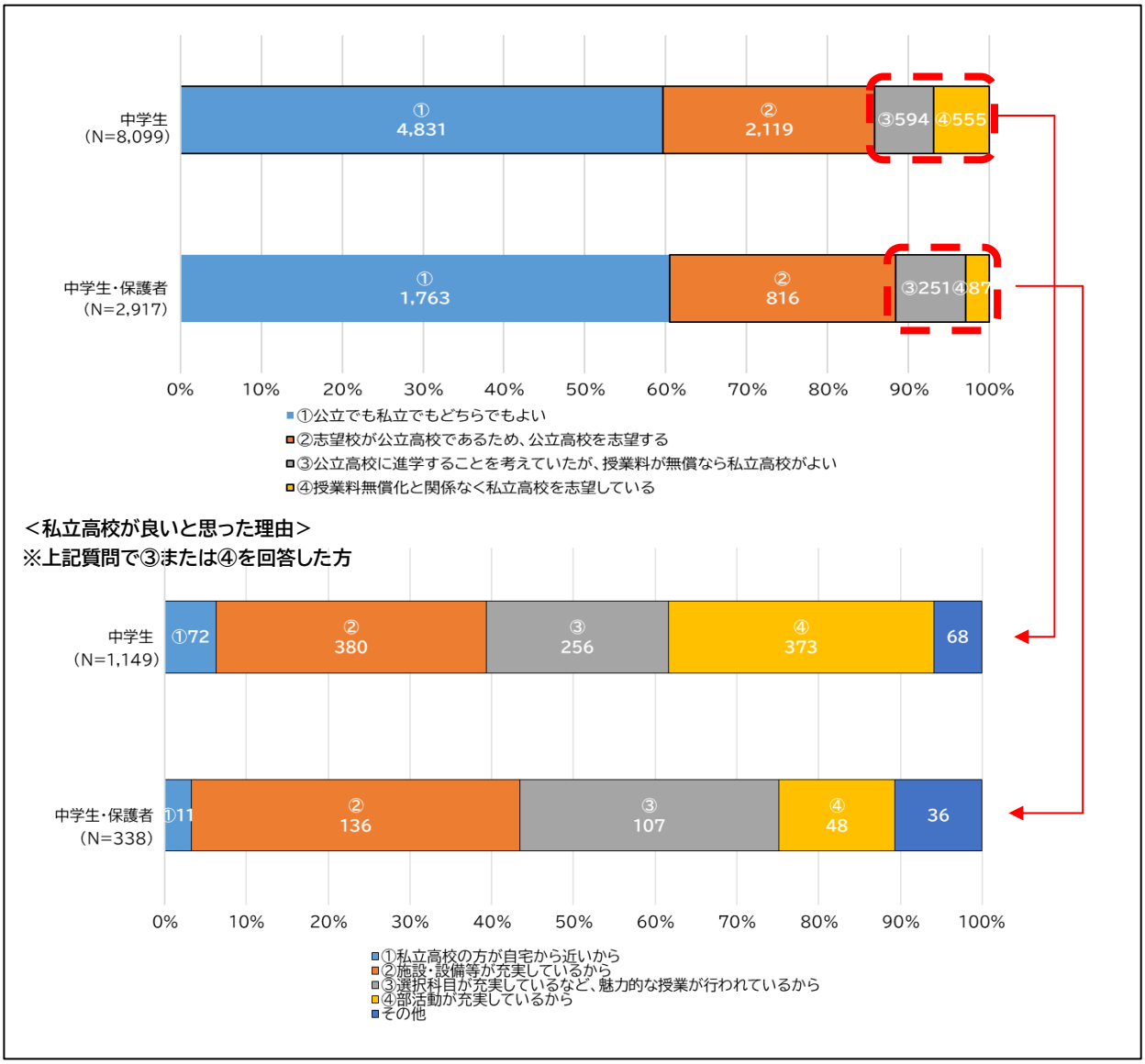
	中学生・保護者	高校生・保護者
①他校や海外の生徒と気軽に交流できる	1,565	2,518
②普段は受けることができない授業を受けられる	2,014	3,362
③通学が難しい生徒も授業を受けられる	1,404	2,302
その他	34	143
合計	2,917	5,159

【課題】

	中学生・保護者	高校生・保護者
①生徒同士や先生とのコミュニケーションがとりづらい	1,603	2,588
②対面の授業より集中できない	1,295	2,019
③授業後、分からない部分を先生に教えてもらいにくい	1,567	2,426
その他	149	353
合計	2,917	5,159

→　中学生も高校生も、「オンライン授業を受けたことがない」の回答が多い。「オンライン授業を受けたことがある」と回答した生徒の感想は、比較的高評価とする回答が多い傾向にある。評価できる点として、「②普段は受けることができない授業を受けられる」の回答が多く、課題として、「①生徒同士や先生とのコミュニケーションがとりづらい」や、「③授業後、分からない部分を先生に教えてもらいにくい」の回答が多い傾向にある。

（１０）私立高校の授業料が無償化された場合、公立と私立のどちらを選択するか。



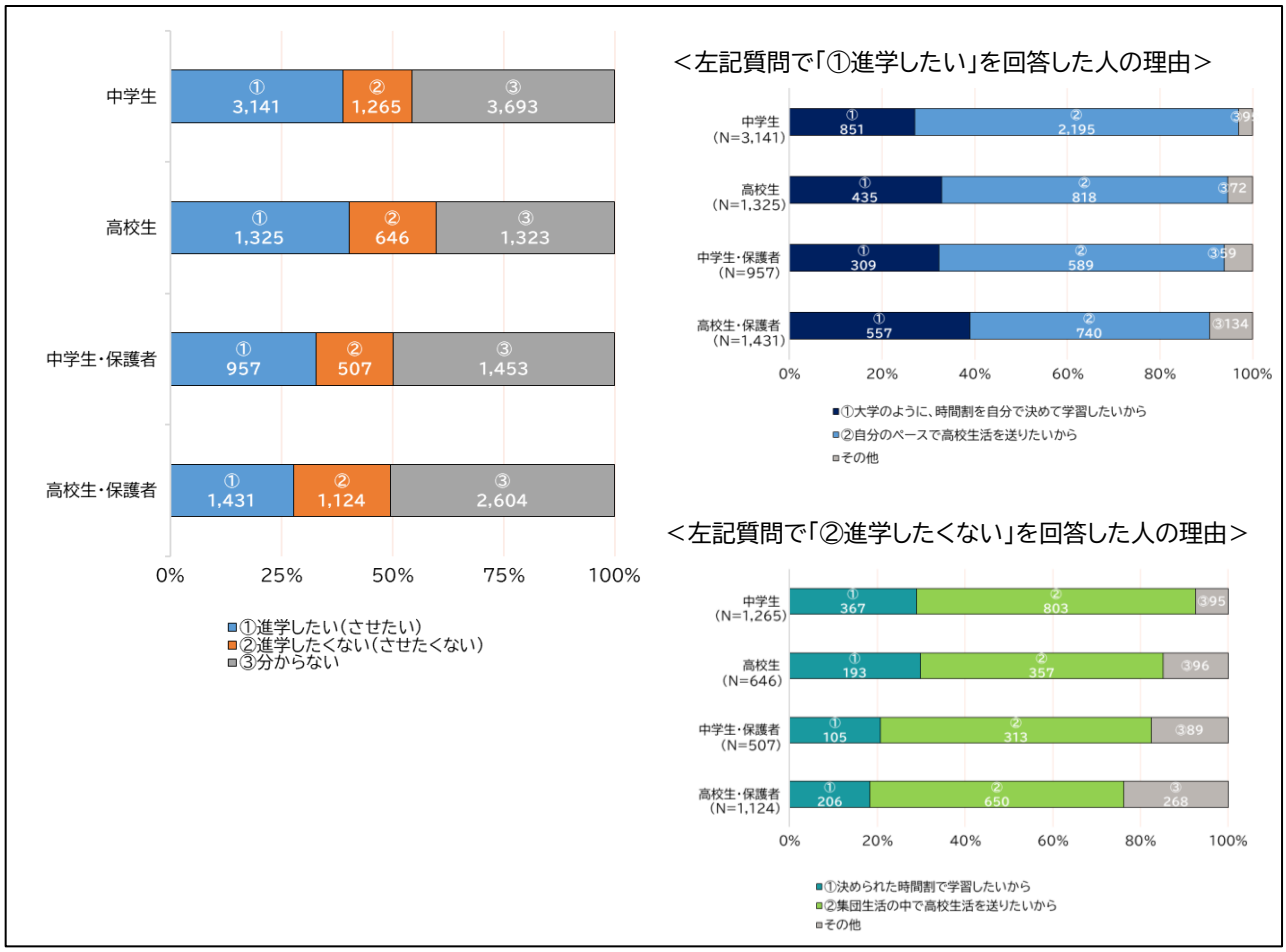
→　中学生もその保護者も、「①公立でも私立でもどちらでもよい」の回答が最も多く、次に「②志望校が公立高校であるため、公立高校を志望する」の回答が多くなっている。

（１１）どの規模の高校に通いたい（通わせたい）か。

	中学生	中学生・保護者
①1学年1学級	446	65
②1学年2、3学級	3,897	888
③1学年4～6学級	3,352	1,725
④1学年7学級以上	404	239
合計	8,099	2,917

→　中学生では、「②１学年２、３学級」の回答が最も多いが、保護者では、「③１学年４～６学級」の回答が最も多くなっている。

（１２）大学のように、時間割を自分で決めることができて、クラスが無く、学習を支援してくれる担当の先生（チューター）のもと、自分のペースで学べる学校があった場合、進学したい（させたい）と思うか。



→　中学生、高校生、その保護者では、「①進学したい（させたい）」の回答が多いが、中学生、高校生と比べて、保護者の方が「①進学したい（させたい）」と回答する割合が小さくなっている。

（１３）より良い高校を創るためのアイデア　※自由記述

中学生

- 興味・関心を見つけることができるような授業や職場体験、専門的知識、学力以外の知識が身に付くような授業などのほか、他校や海外等と交流する機会を増やしてほしい。
- グローバル化が進んでいるので、その利点を活かして、インターネット上などで海外や他地域の人々とも交流できる授業や制度があると良いと思う。
- 生徒が過ごしやすく、部活動などが充実している学校に行ってみたい。
- スクールバスや体育館へのエアコンの設置、校舎の整備のほか、校則は厳しくないものにしてほしい。

中学生・保護者

- 高校卒業後の選択肢が広がるように、職場見学・体験やキャリア教育、社会に出てから必要な知識が学ぶことができるような授業を行ってほしい。
- どこの地域からでも通学しやすいように、スクールバスや寮などの整備を進めるほか、給食または学食の提供をお願いしたい。
- 学力や偏差値だけでない新しい価値観や評価基準を提示し、自分の興味・関心から学びを広げ、自信をつけ、自分なりに社会に貢献する方法を見つけられるよう人格形成を重視する、多様な大人が関わる、幼児から高齢者まで関わる場がある等、従来の形にとらわれない学校が必要。
- 選択制などで選べる講義がいくつかあると良いと思う。

高校生

- 学校間などでの交流を通して様々な意見に触れる活動や、人間性を育む取組があれば良いと思う。
- もっと海外の学生と交流できる機会をもってほしい。
- 社会に出てから必要な知識（政治、税金など）に関する授業を受けたい。
- 生徒の意見を反映できるような学校にしてほしい。厳しい校則を見直してほしい。
- 学校の設備（各教室、体育館へのエアコンの設置、トイレの整備）を整えてほしい。
- 一人一人が活躍できるような学校で、一人一人のレベルにあった授業があるといい。
- 伝統にとらわれず新しい発想や想像を活かしてもらえる高校にしてほしい。

高校生・保護者

- 職業体験・見学などを通して、将来の目標が見つかるような授業や機会を設けてほしい。また、就職に向けて、保険や税金、投資の基本などを学べる機会があれば良いと思う。
- エアコンを体育館、特別教室や部活動などの活動スペースに設置してほしい。
- 通学しやすいように、スクールバス、公共交通機関等の整備をお願いしたい。
- 例えば、工業高校の授業でも、一般の大学進学に向けた授業にも力を入れてほしい。
- オンラインを通じて、他の学校の生徒や海外の高校生との交流があることや、色々な企業の人から現場の生の声を聞ける授業があると、今学んでいる学習もより身近に感じながら学びやすいのではないか。

９　意見聴取状況

「みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040」の策定にあたり、広く県民の意見を取り入れるため、パブリックコメント、説明会・意見交換会等を実施したもの。

名称	実施期間	実施回数等	意見数
パブリックコメント	令和７年１１月２５日 ～１２月２４日	意見提出者数：３人	１０件
地区別高校在り方説明会	令和７年１１月２５日 ～　１２月２１日	７圏域／７回 参加人数計：５７人	６３件
中学生意見聴取会	令和７年１２月９日 ～　１２月１６日	７圏域／８回 参加人数計：１６人	７７件
市町村長との意見交換会	令和７年１２月１８日 ～　令和８年１月３０日	県内３４市町村長	―
産業界との意見交換	令和８年　１月１６日 ～１月２９日	農業、水産業、工業、建設業 （業界４団体）	―
		合　計	**１５０件**

１０　県立高等学校将来構想審議会に対する諮問文

高 第 ４ ７ ５ 号
令和６年２月１６日

県立高等学校将来構想審議会会長　殿

宮城県教育委員会
教育長　佐　藤　靖　彦

急速な少子化が進行する中での県立高等学校の在り方について（諮問）

このことについて、県立高等学校将来構想審議会条例（平成２０年宮城県条例第４号）第１条の規定により、別紙理由書を添えて諮問します。

（別紙）

理　　由　　書

県教育委員会では、平成３１年２月に策定した「第３期県立高校将来構想」に基づき、「未来を担う高い志を持つ人づくり」や「未来を拓く魅力ある学校づくり」を目指して、志教育の推進や地域のニーズに応える高校づくり、生徒数の減少に対応した学級減や学校再編などの高校教育改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、本県の中学校卒業者数は、令和５年３月の１９，９７３人から１５年後には約７千人減少していくことが見込まれており、少子化が急速に進展する中、生徒の多様な学習ニーズに応じた学びや、地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びをどのように確保していくか検討することが喫緊の課題となっています。

また、「主体的・対話的で深い学び」の実現や様々な事情により学校に登校できない生徒に対する支援の実施、教育ＤＸの推進等への対応なども重要な課題となっており、高校教育改革の方向性等を整理する必要があるとものと考えています。

このようなことから、次期県立高校将来構想を前倒しして策定することとし、急速な少子化が進行する中での、県立高校が果たすべき役割や高校配置の将来像など、県立高等学校の在り方について諮問するものです。

１１　県立高等学校将来構想審議会委員名簿

（任期：令和６年２月１６日から令和８年２月１５日まで）

（五十音順 敬称略）

所　　属	氏　　名	備考
国立大学法人東北大学　大学院教育学研究科　教授	青木（あおき）　栄一（えいいち）	会長
宮城県大河原産業高等学校　校長	伊藤（いとう）　直美（なおみ）	
宮城県私立中学高等学校連合会　副会長 （聖ウルスラ学院英智小・中学校，高等学校　校長）	伊藤（いとう）　宣子（のぶこ）	
有限会社　伊豆沼農産　代表取締役会長	伊藤（いとう）　秀雄（ひでお）	
宮城県高等学校ＰＴＡ連合会　会長	稲垣（いながき）　美樹（みき）	任期 R7.5.1～
宮城県町村教育長会　幹事 （松島町教育委員会教育長）	内海（うちみ）　俊行（としゆき）	
宮城県貞山高等学校　校長	太田（おおた）　克佳（かつよし）	任期 R6.5.30～
宮城県中小企業会同友会　共同求人委員長 （株式会社パラマウント　代表取締役）	粕川（かすかわ）　利史（としふみ）	
学校法人朴沢学園　仙台大学体育学部　教授	菊地（きくち）　直子（なおこ）	
国立大学法人東北大学　大学院教育学研究科　准教授	後藤（ごとう）　武俊（たけとし）	
前宮城県貞山高等学校　校長	佐藤（さとう）　彰彦（あきひこ）	任期 R6.2.16～ R6.5.29
宮城県都市教育長協議会　会員 （石巻市教育委員会教育長）	宍戸（ししど）　健悦（けんえつ）	
office ayumitoiro　代表	関（せき）　美織（みおり）	
前宮城県高等学校長協会　会長 （前宮城県仙台第二高等学校　校長）	高橋（たかはし）　賢（けん）	任期 R6.2.16～ R7.4.30
一般財団法人イシノマキ・ファーム　代表理事	高橋（たかはし）　由佳（ゆか）	
国立大学法人　宮城教育大学教職大学院　教授	田端（たばた）　健人（たけと）	副会長
宮城県高等学校長協会　会長 （宮城県仙台第一高等学校　校長）	樽野（たるの）　幸義（ゆきよし）	任期 R7.5.1～
前宮城県中学校長会　会員 （前登米市立登米中学校　校長）	千葉（ちば）　純子（じゅんこ）	任期 R6.2.16～ R7.4.30
国立大学法人東北大学　大学院情報科学研究科　准教授	長濱（ながはま）　澄（とおる）	
宮城県PTA連合会　副会長	畑山（はたやま）　和晴（かずはる）	任期 R7.7.1～
前宮城県PTA連合会　副会長	平吹（ひらぶき）　淳（あつし）	任期 R6.2.16～ R7.6.30
前宮城県高等学校PTA連合会　顧問	町田（まちだ）　さやか	任期 R6.2.16～ R7.4.30
宮城県中学校長会　理事 （塩竈市立第二中学校　校長）	松﨑（まつざき）　和佳子（わかこ）	任期 R7.5.1～
学校法人栴檀学園東北福祉大学　教育学部　教授	村上（むらかみ）　由則（よしのり）	
東北電子産業株式会社　代表取締役社長	山田（やまだ）　理恵（りえ）	

（注）所属は令和７年７月１日現在

○　専門部会構成員

・学校配置検討部会　　（五十音順　敬称略）

NO	現職	氏　　名	備考
1	国立大学法人東北大学 大学院教育学研究科　教授	青 木　栄 一	部会長
2	宮城県高等学校長協会　会長	樽 野　幸 義	
3	宮城県都市教育長協議会　会員	宍 戸　健 悦	
4	宮城県町村教育長会　幹事	内 海　俊 行	

・小規模校の学びの在り方検討部会

NO	現職	氏　　名	備考
1	国立大学法人東北大学 大学院情報科学研究科 准教授	長　濱　　澄	部会長
2	学校法人朴沢学園 仙台大学体育学部　教授	菊 地　直 子	
3	宮城県ＰＴＡ連合会　副会長	畑 山　和 晴	

・高校魅力化検討部会

NO	現職	氏　　名	備考
1	国立大学法人宮城教育大学 教職大学院　教授	田 端　健 人	部会長
2	宮城県大河原産業高等学校　校長	伊 藤　直 美	
3	office ayumitoiro　代表	関　　美　織	

・多様な学びの在り方検討部会

NO	現職	氏　　名	備考
1	国立大学法人東北大学 大学院教育学研究科 准教授	後 藤　武 俊	部会長
2	学校法人栴檀学園東北福祉大学 教育学部 教授	村 上　由 則	
3	宮城県貞山高等学校　校長	太 田　克 佳	

（注）いずれの部会も所属は令和７年７月１日現在

１２　みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 策定経過

年 月 日	経　過	内　容
令和６年２月１６日	第１回県立高等学校将来構想審議会開催	・会長、副会長の選任について ・諮問、趣旨説明 ・宮城県の高校教育の現状について ・次期将来構想の策定について
５月３０日	第２回県立高等学校将来構想審議会開催	・高校教育改革の取組について ・次期将来構想の策定について ・第３期将来構想第２次実施計画の取組状況について
８月２７日	第３回県立高等学校将来構想審議会開催	・学校配置や学校規模の考え方の論点整理 ・第２期宮城県特別支援教育将来構想中間案について
１０月２４日	第４回県立高等学校将来構想審議会開催	・学校配置や学校規模の考え方について ・今後の検討の進め方について ・アンケート調査実施結果について
１１月２６日	第１回学校配置検討部会開催	・地区別の学校配置の方向性について
１２月１０日	第２回学校配置検討部会開催	・地区別の学校配置の方向性について
１２月１９日	第１回高校魅力化検討部会開催	・普通科の魅力化方策について ・次期県立高校将来構想の策定に向けた企業ヒアリングについて
１２月２３日	第１回小規模校の学びの在り方検討部会開催	・小規模校の学びの在り方について
１２月２４日	第１回多様な学びの在り方検討部会開催	・多様な学びの在り方について
令和７年１月１５日	第３回学校配置検討部会開催	・地区別の学校配置の方向性について ・通学時間の検討について
１月１６日	第２回高校魅力化検討部会開催	・専門学科の魅力化方策について
１月２０日	第２回小規模校の学びの在り方検討部会開催	・小規模校の学びの在り方について
１月２３日	第２回多様な学びの在り方検討部会開催	・多様な学びの在り方について
２月６日	第５回県立高等学校将来構想審議会開催	・各部会の検討経過、検討状況について
３月２６日	第３回小規模校の学びの在り方検討部会開催	・小規模校の学びの在り方について
３月２７日	第３回多様な学びの在り方検討部会開催	・多様な学びの在り方について

年 月 日	経　過	内　容
令和７年３月２８日	第３回高校魅力化検討部会開催	・家政科、福祉科、体育科の取組の方向性について
５月２９日	第４回小規模校の学びの在り方検討部会開催	・中間案の骨子（案）について
５月３０日	第４回高校魅力化検討部会開催	・中間案の骨子（案）について ・次期県立高校将来構想の策定に向けた企業ヒアリング結果について
６月５日	第４回学校配置検討部会開催	・普通科の魅力化方策について（案） ・中高一貫校の在り方について ・高大接続について ・定員見直しの方針について ・中間案の骨子（案）の検討
６月６日	第４回多様な学びの在り方検討部会開催	・中間案の骨子（案）について
７月９日	合同部会開催	・中間案の骨子（案）の検討
８月１日	第６回県立高等学校将来構想審議会開催	・答申骨子（案）の検討について
９月	県立高校に関するアンケート調査	•県内中学１年生から高校３年生の生徒とその保護者を対象に実施
１０月２７日	第７回県立高等学校将来構想審議会開催	・答申中間案（素案）について
１１月１４日	第８回県立高等学校将来構想審議会開催	・答申中間案について
１１月２５日	答申中間案公表	
１１月２５日 ～１２月２４日	答申中間案パブリックコメント募集	
１１月２５日 ～１２月２１日	答申中間案地区別高校在り方説明会（県内７圏域で実施）	・７圏域（南部、中部、大崎、栗原、登米、石巻、気仙沼・本吉地区）で開催
１２月９日 ～１２月１６日	答申中間案中学生への意見聴取	・７圏域の中学生を対象に実施
１２月１８日 ～令和８年１月３０日	答申中間案市町村長との意見交換会	
１月１６日 ～１月２９日	答申中間案産業界との意見交換会	・農業、水産業、工業、建設業（業界４団体）
１月２３日	第９回県立高等学校将来構想審議会開催	・答申中間案に対する意見等について ・答申（案）について
２月１３日	答申	

宮城県教育委員会（教育庁高校教育創造室）

〒980-8423　宮城県仙台市青葉区本町３丁目８番１号
TEL　022－211-3617
FAX　022－211-3696
E-mail　kokyosoks@pref.miyagi.lg.jp
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/souzou/koukoukyouikusouzousitu.html